

「医療のかかり方・女性の健康に関する世論調査」の概要

令和元年 11 月
内閣府政府広報室

- 調査対象 全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 5,000 人
有効回収数 2,803 人 (回収率 56.1%)
- 調査期間 令和元年 7 月 26 日 ~ 9 月 10 日 (郵送法)
- 調査目的 医療のかかり方・女性の健康に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。
- 調査項目 医療のかかり方
1 医療機関の選び方について
2 休日・夜間の受診について
3 医師の長時間労働の改善について
4 医療機関の機能分化・連携について
女性の健康
1 自分の健康について
2 女性の健康について
- その他 図表の数値(%)は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、内訳の合計が100にならないこともある。

<医療のかかり方>

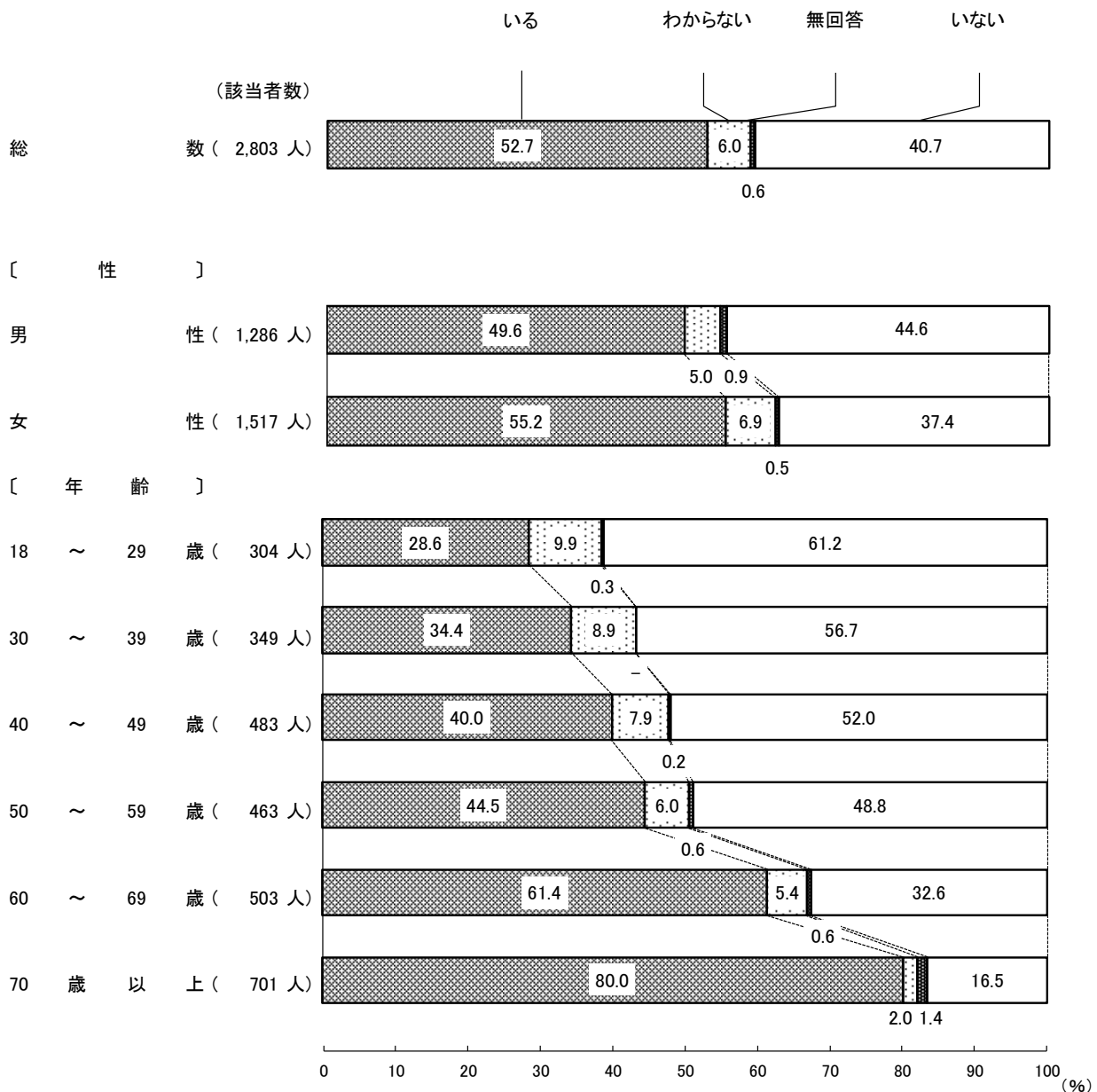
1 医療機関の選び方について

(1) かかりつけ医の有無

問1 あなたには、「かかりつけ医（例えば、健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれるような身近にいて頼りになる医師）」はいますか。（○は1つ）

令和元年7月

- ・いる 52.7%
- ・いない 40.7%



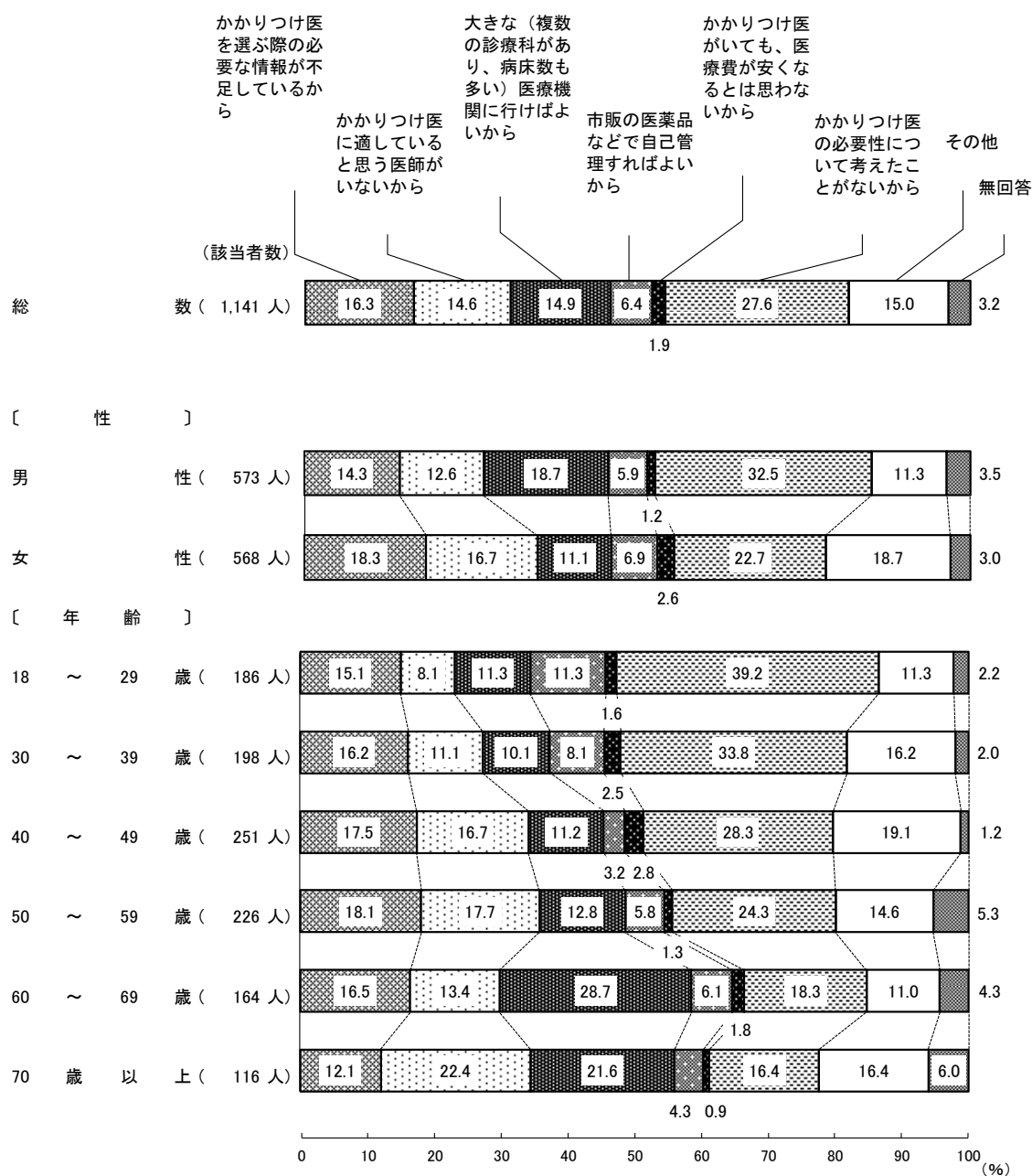
ア かかりつけ医がない理由

(問1で「かかりつけ医」がない」と答えた方(1,141人)に)
 問2「かかりつけ医」がない理由は何ですか。(〇は最もあてはまるものに1つ)

令和元年7月

- ・ かかりつけ医を選ぶ際の必要な情報が不足しているから 16.3%
- ・ かかりつけ医に適していると思う医師がないから 14.6%
- ・ 大きな(複数の診療科があり、病床数も多い)医療機関に行けばよいから 14.9%
- ・ 市販の医薬品などで自己管理すればよいから 6.4%
- ・ かかりつけ医がいても、医療費が安くなるとは思わないから 1.9%
- ・ かかりつけ医の必要性について考えたことがないから 27.6%
- ・ その他 15.0%

(「かかりつけ医」が「いない」と答えた者に)



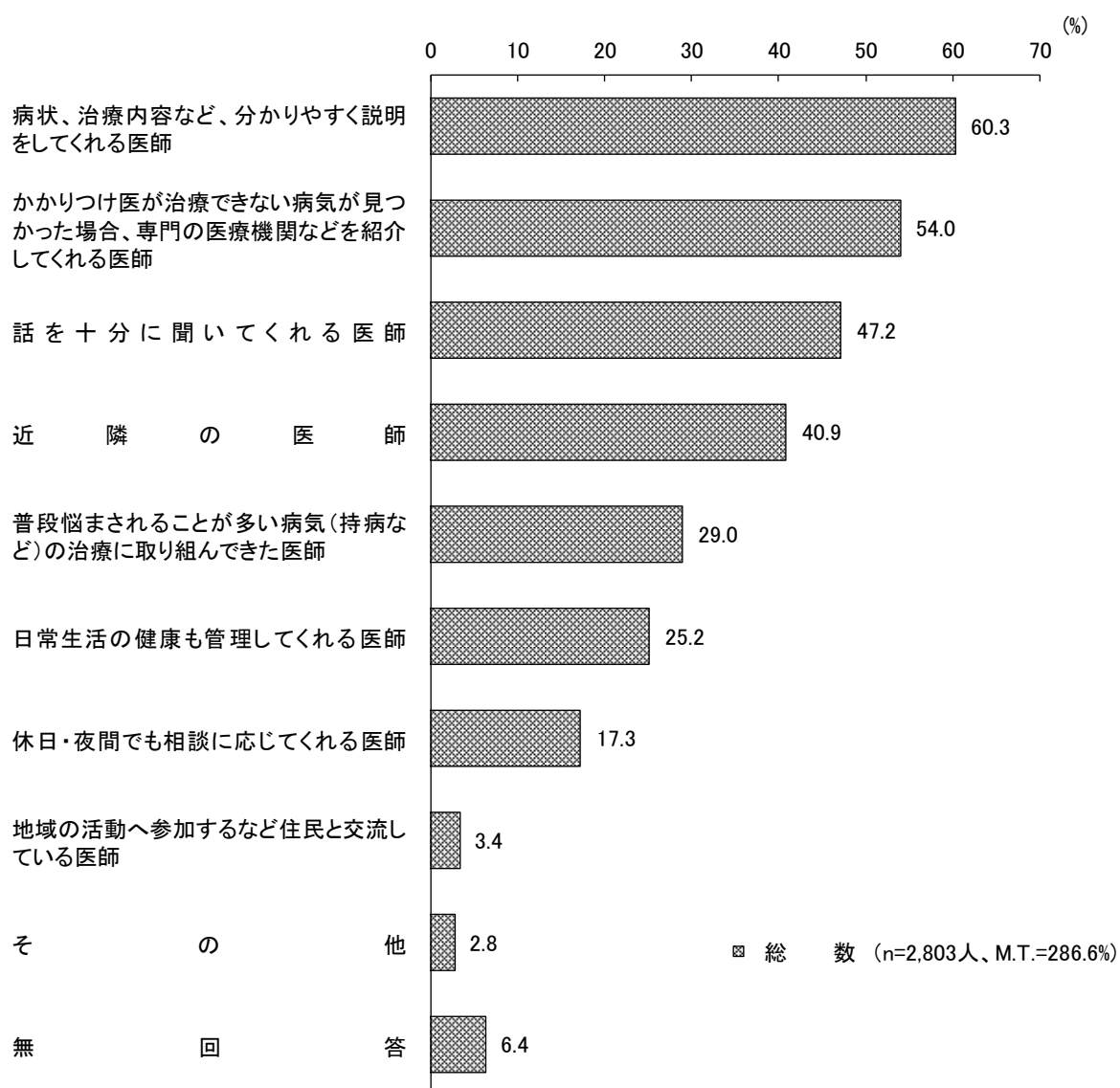
(2) かかりつけ医に求める要件

問3 あなたが「かかりつけ医」を選ぶ際に重視していることは何ですか。かかりつけ医がいない人は、かかりつけ医を見つける場合のことをお考えください。(〇はいくつでも)

(上位4項目)
令和元年7月

- ・病状、治療内容など、分かりやすく説明をしてくれる医師 60.3%
- ・かかりつけ医が治療できない病気が見つかった場合、専門の医療機関などを紹介してくれる医師 54.0%
- ・話を十分に聞いてくれる医師 47.2%
- ・近隣の医師 40.9%

(複数回答)

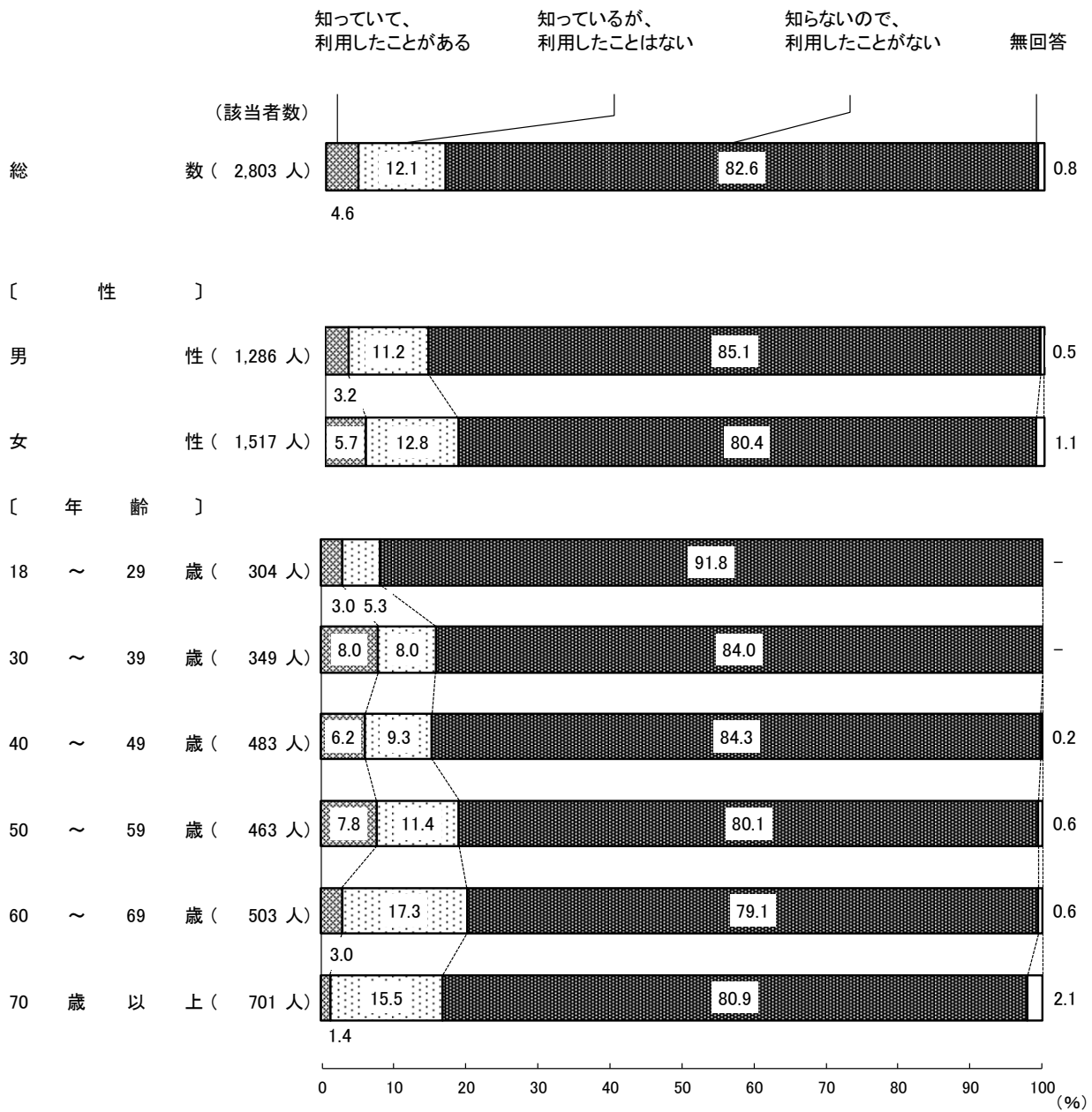


(3) 医療情報ネットの認知と利用

問4 インターネット上の都道府県ホームページの中に、「医療情報ネット」という医療機関を検索できるウェブサイトがあることを知っていますか。また利用したことはありますか。(〇は1つ)

令和元年7月

- ・ 知っていて、利用したことがある 4.6%
- ・ 知っているが、利用したことはない 12.1%
- ・ 知らないなので、利用したことがない 82.6%



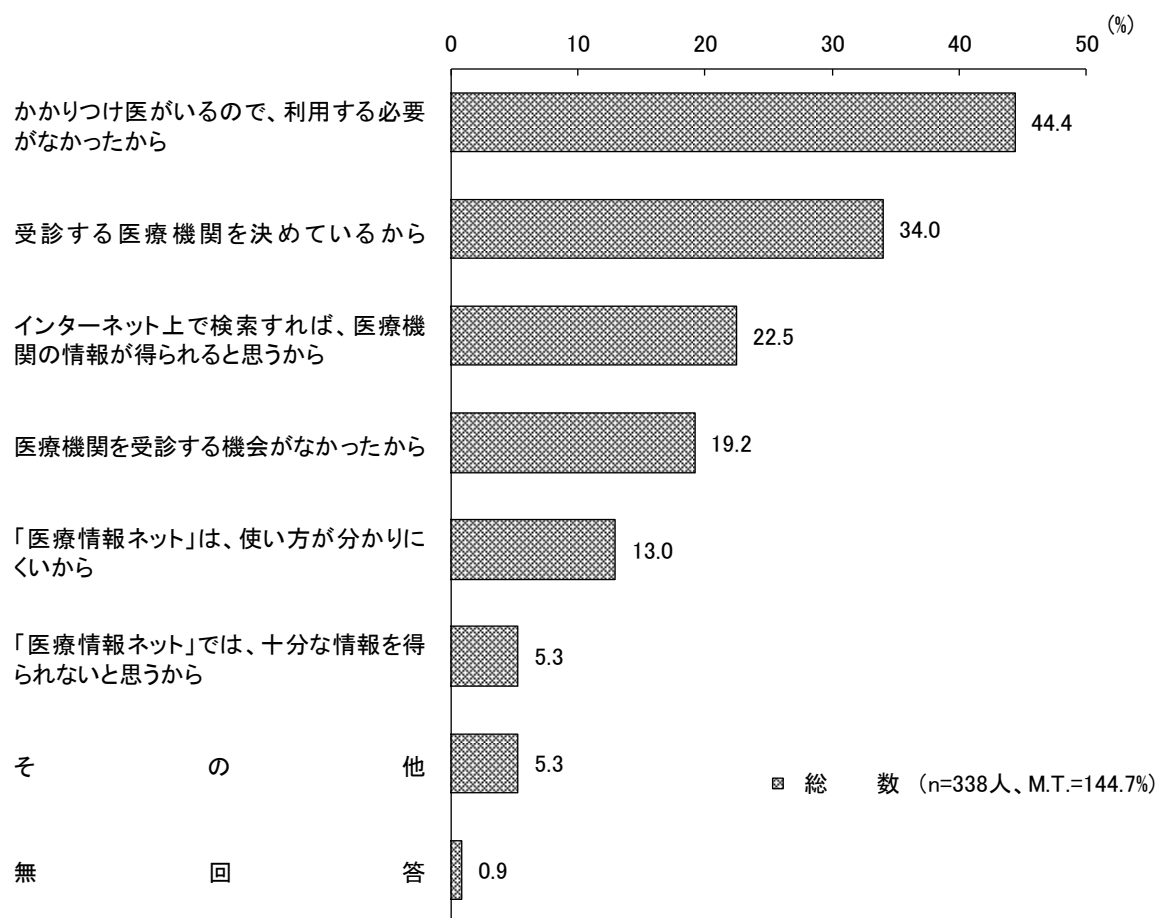
ア 医療情報ネットを知っていて利用しなかった理由

(問4で「知っているが、利用したことはない」と答えた方(338人)に)
 問5「医療情報ネット」があることを知っていて、利用しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

(上位4項目)
 令和元年7月

- ・ かかりつけ医がいるので、利用する必要がなかったから 44.4%
- ・ 受診する医療機関を決めているから 34.0%
- ・ インターネット上で検索すれば、医療機関の情報が得られると思うから 22.5%
- ・ 医療機関を受診する機会がなかったから 19.2%

(「医療情報ネット」を「知っているが、利用したことはない」と答えた者に、複数回答)

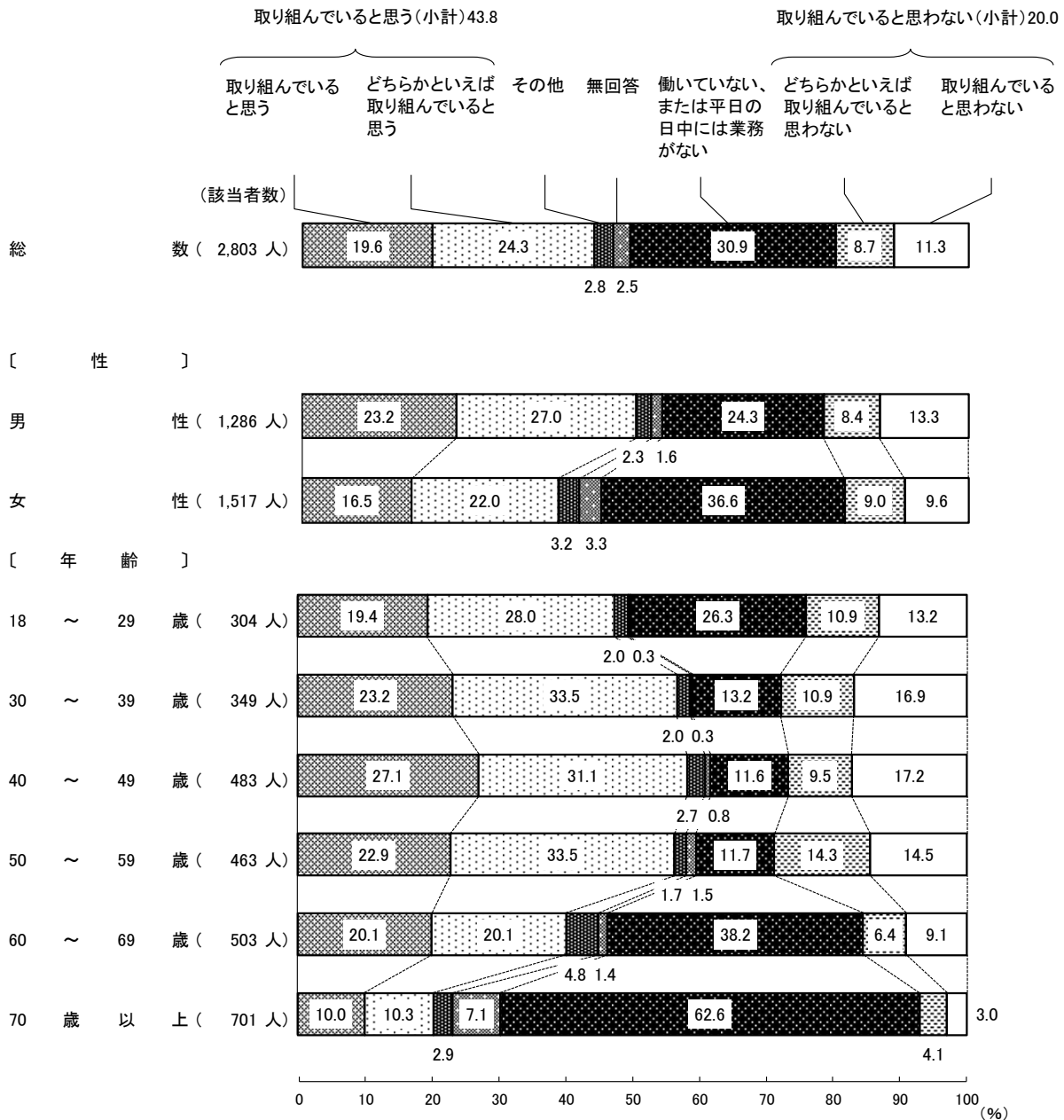


(4) 平日に受診可能にするための職場の取組

問6 あなたは、あなたの職場が、職員が平日の日中に仕事を休んで医療機関を受診することができるよう、積極的に取り組んでいると思いますか。なお、本調査における「平日」は、土曜日を含めずにお考えください。(〇は1つ)

令和元年7月

取り組んでいると思う(小計)	43.8%
・取り組んでいると思う	19.6%
・どちらかといえば取り組んでいると思う	24.3%
取り組んでいると思わない(小計)	20.0%
・どちらかといえば取り組んでいると思わない	8.7%
・取り組んでいると思わない	11.3%
・働いていない、または平日の日中には業務がない	30.9%



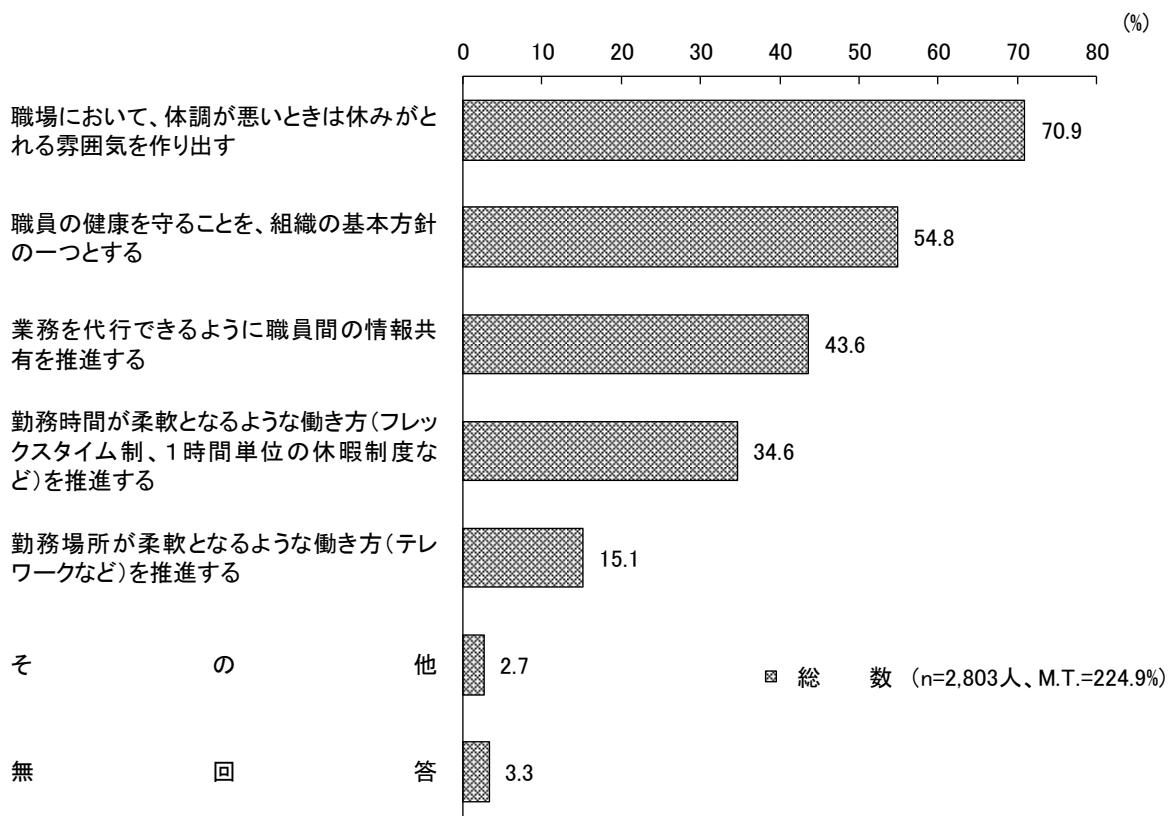
(5) 平日に受診可能にするために雇用者側が取り組むべきこと

問7 あなたは、仕事をしている人が、平日の日中に仕事を休んで医療機関を受診できるようになるには、民間企業など雇用者側がどのような取組を行う必要があると思いますか。
(〇はいくつでも)

(上位4項目)
令和元年7月

- ・ 職場において、体調が悪いときは休みがとれる雰囲気を作り出す 70.9%
- ・ 職員の健康を守ることを、組織の基本方針の一つとする 54.8%
- ・ 業務を代行できるように職員間の情報共有を推進する 43.6%
- ・ 勤務時間が柔軟となるような働き方（フレックスタイム制、1時間単位の休暇制度など）を推進する 34.6%

(複数回答)



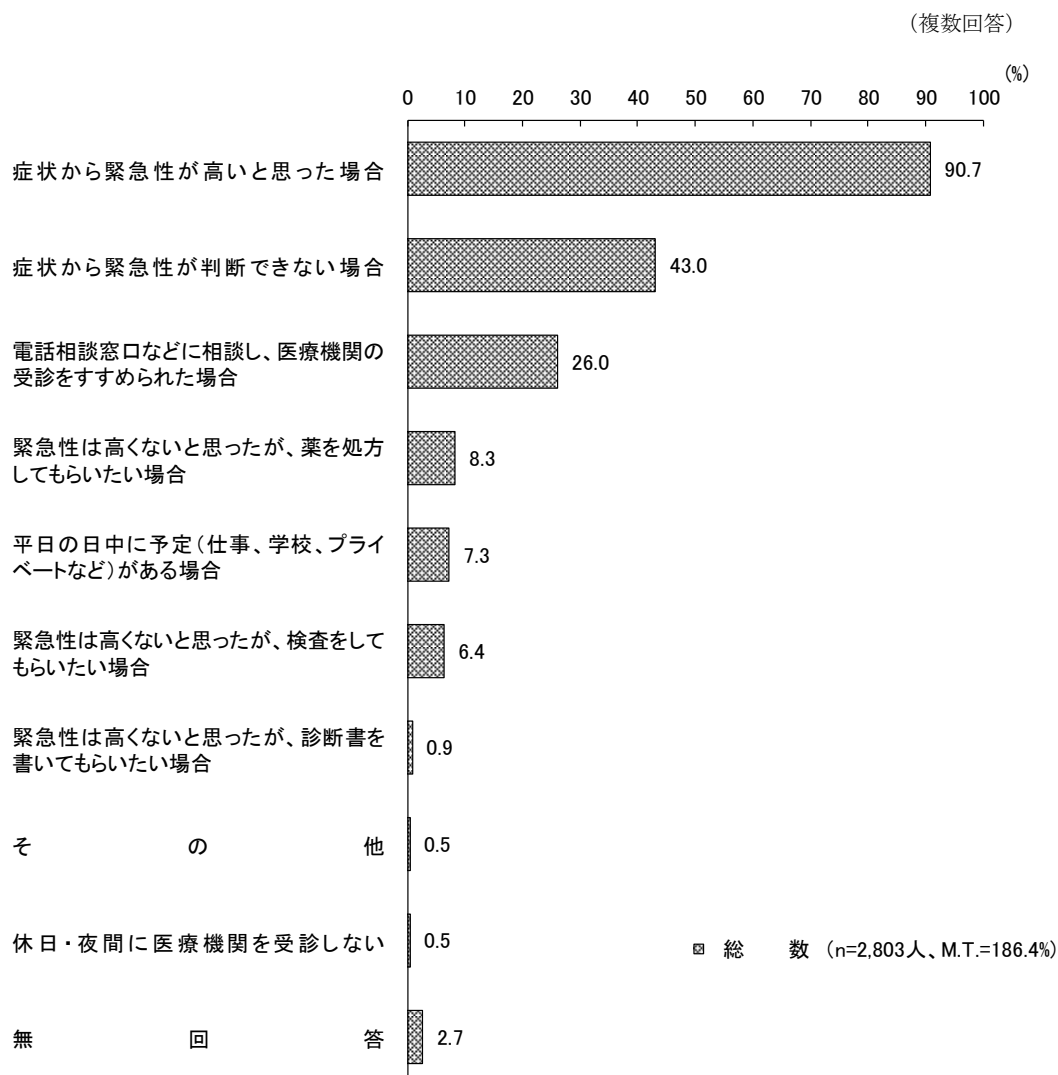
2 休日・夜間の受診について

(1) 休日・夜間に受診しようと思う状況

問8 あなたや家族が休日・夜間に病気やけがをした時、どのような場合に、休日・夜間に医療機関を受診しようと思いますか。(〇はいくつでも)

(上位2項目)
令和元年7月
90.7%
43.0%

- ・ 症状から緊急性が高いと思った場合
- ・ 症状から緊急性が判断できない場合



(2) 診療時間外の医療費の認知

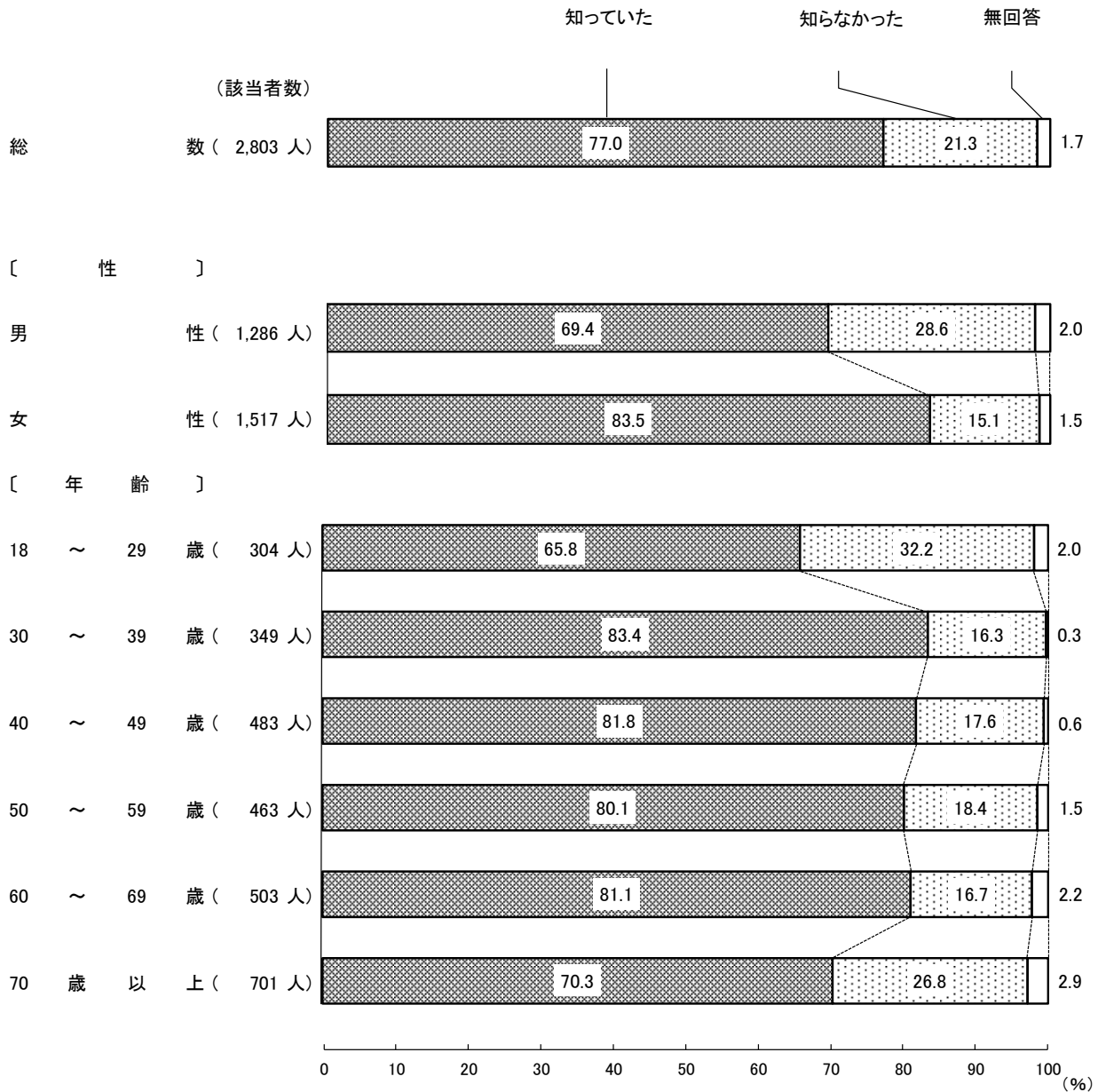
問9 あなたは、平日の日中に医療機関を受診するより、診療時間外（主に休日・夜間）に受診する方が医療費は高いということを知っていましたか。（○は1つ）

令和元年7月

- ・知っていた
- ・知らなかった

77.0%

21.3%



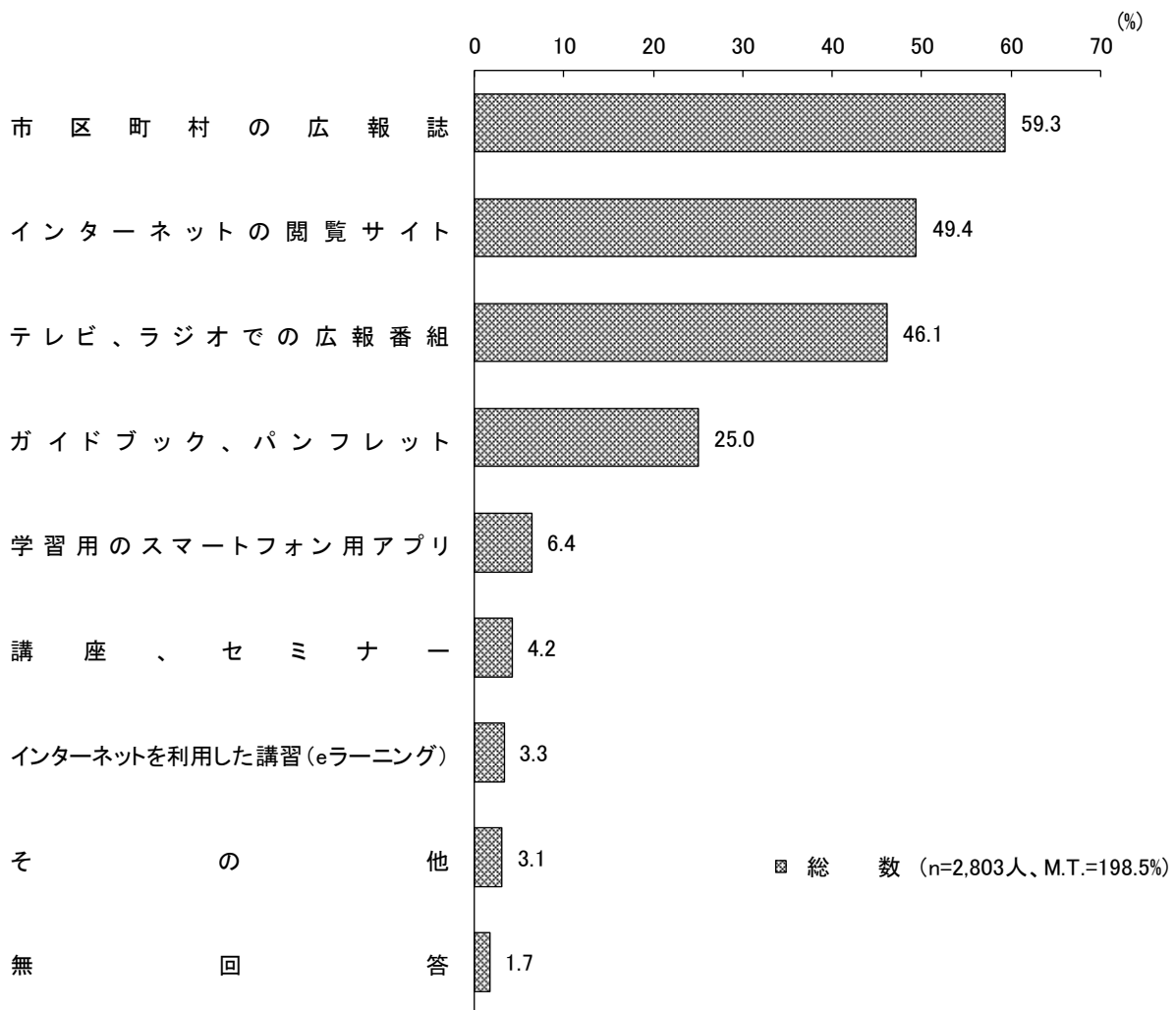
(3) 休日・夜間の受診の判断に係る広報啓発

問 10 休日・夜間に医療機関を受診すべきかどうか判断する症状の目安や、症状に見合った医療機関の選び方について、行政が広報啓発する場合、あなたは、どのような手段や機会を設けるのがよいと思いますか。(〇はいくつでも)

(上位3項目)
令和元年7月

- ・市区町村の広報誌 59.3%
- ・インターネットの閲覧サイト 49.4%
- ・テレビ、ラジオでの広報番組 46.1%

(複数回答)

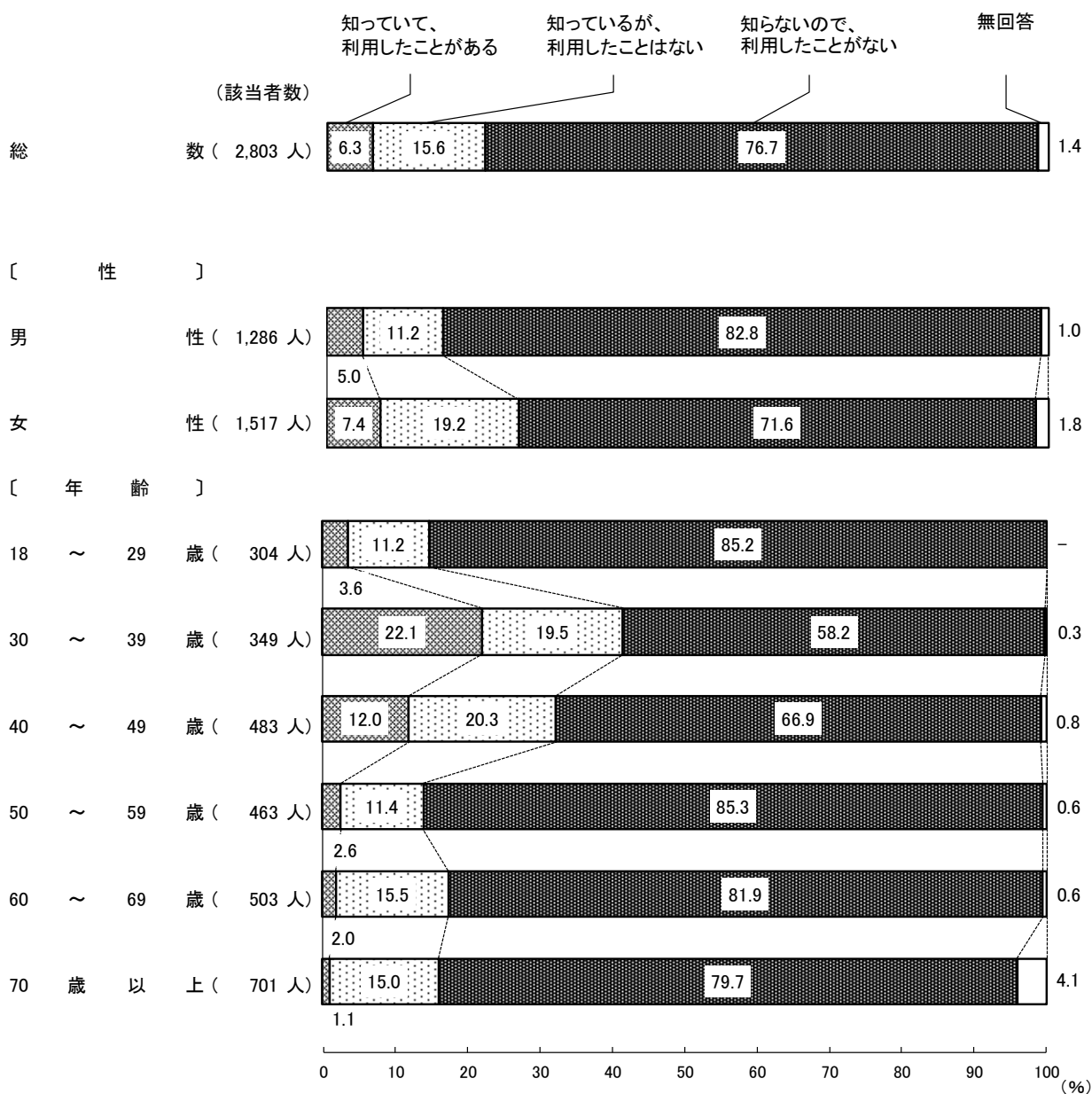


(4) 子ども医療電話相談（#8000）の認知と利用

問 11 電話で「#8000」の番号に掛ければ、「子ども医療電話相談」につながることを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○は1つ）

令和元年 7 月

- ・ 知っていて、利用したことがある 6.3%
- ・ 知っているが、利用したことはない 15.6%
- ・ 知らないなので、利用したことがない 76.7%



(参考)

	該当者数	知っていて、利用したことがある (%)	知っているが、利用したことはない (%)	知らないなので、利用したことがない (%)
〔子どもの成長段階〕	人	%	%	%
乳児、幼児、未就学児	259	40.5	30.1	29.0
小学生	265	26.4	26.4	46.8

表11－参考 小児救急電話相談（＃８０００）の認知

	該 当 者 数	知 っ て い る	知 ら な い	わ か ら な い
平成 26 年 7 月 調 査	人 1,868	% 10.2	% 88.8	% 1.0

(注1) 平成26年7月「母子保健に関する世論調査」では、「あなたは、電話で＃８０００の番号に掛ければ、小児救急電話相談に繋がることを知っていますか、それとも知りませんか」と聞いている。

(注2) 〃８００〃事業は、平成30年に「小児救急電話相談事業」から「子ども医療電話相談事業」へ呼称を変更している。

(参考)

平成 26 年 7 月 調 査	該 当 者 数	知 っ て い る	知 ら な い	わ か ら な い
〔就学前の子どもの有無〕 い る	人 214	% 39.7	% 59.3	% 0.9

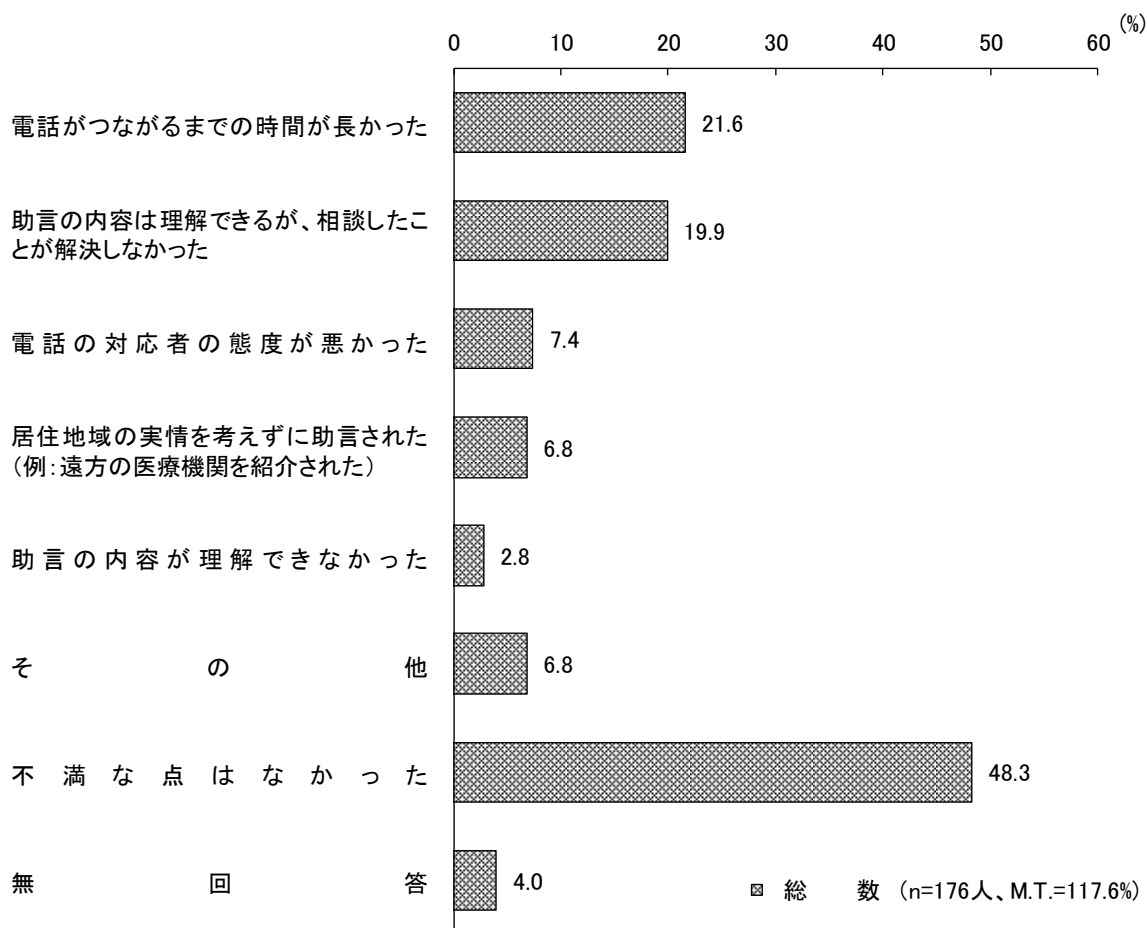
ア 子ども医療電話相談（#8000）を利用した際の不満な点

（問11で「知っていて、利用したことがある」と答えた方（176人）に）
 問12「#8000（子ども医療電話相談）」を利用した際に、不満な点はありましたか。
 （〇はいくつでも）

（上位2項目）
 令和元年7月

- ・電話がつながるまでの時間が長かった 21.6%
- ・助言の内容は理解できるが、相談したことが解決しなかった 19.9%
- ・不満な点はなかった 48.3%

（「#8000（子ども医療電話相談）」を「知っていて、利用したことがある」と答えた者に、複数回答）



3 医師の長時間労働の改善について

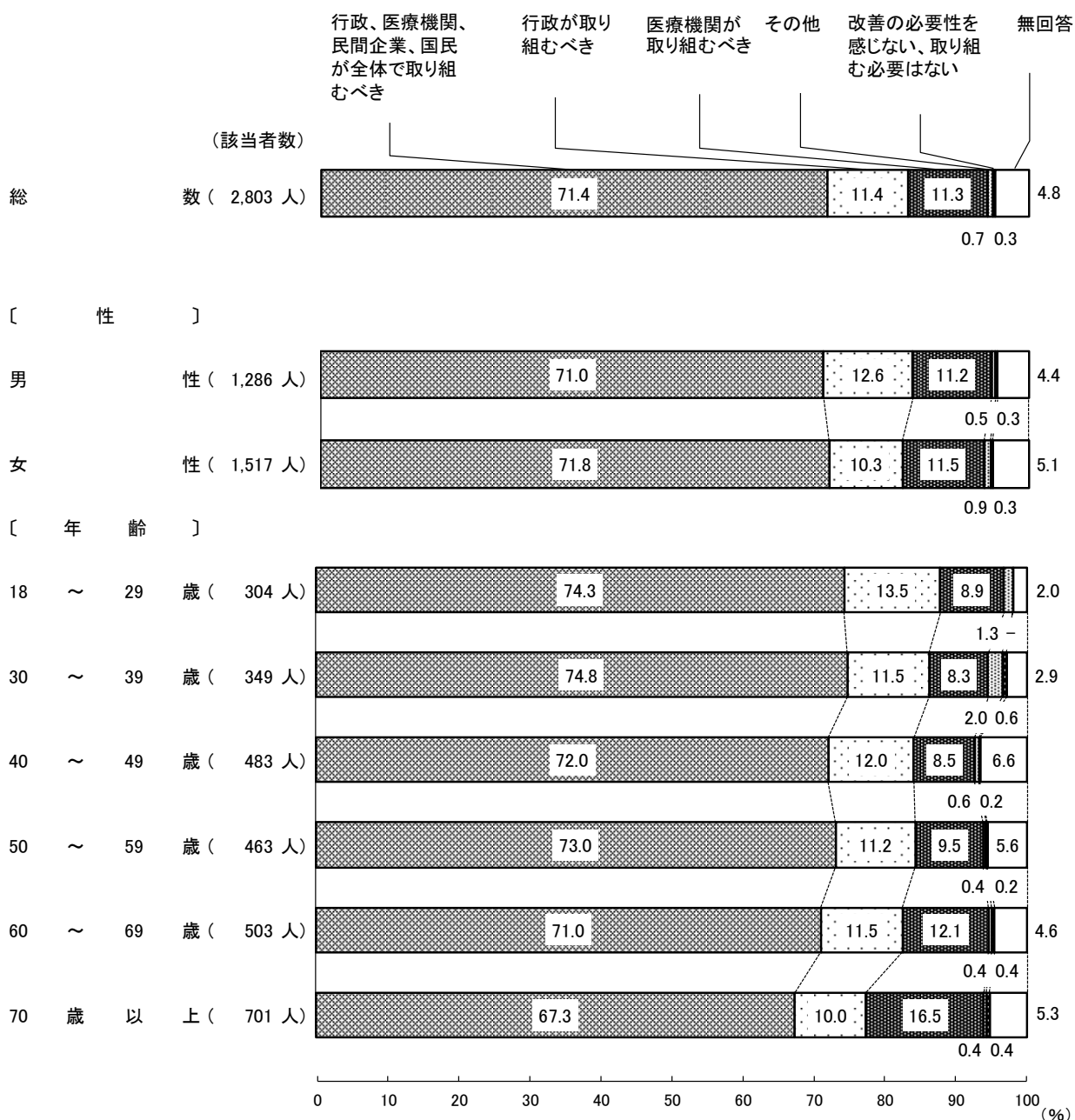
(1) 医師の長時間労働の改善に取り組む主体

(資料を提示して、調査対象者に読んでもらってから質問)

問 13 あなたは、医師の長時間労働を改善させることについて、誰が取り組むべきだと思いますか。(○は最もあてはまるものに1つ)

令和元年7月

- 行政、医療機関、民間企業、国民が全体で取り組むべき 71.4%
- 行政が取り組むべき 11.4%
- 医療機関が取り組むべき 11.3%
- 改善の必要性を感じない、取り組む必要はない 0.3%



(2) 主治医以外の医師が病状を説明することの賛否

問 14 医師の長時間労働の課題を解決するためには、例えば、主治医（診療を主として担当する医師）ばかりを頼らないことなどの方策が考えられます。あなたは、病状について、主治医以外の医師が説明することに賛成ですか、それとも反対ですか。（○は1つ）

令和元年 7 月

賛成（小計）

70.9%

- ・ 賛成
- ・ どちらかといえば賛成

32.0%

38.9%

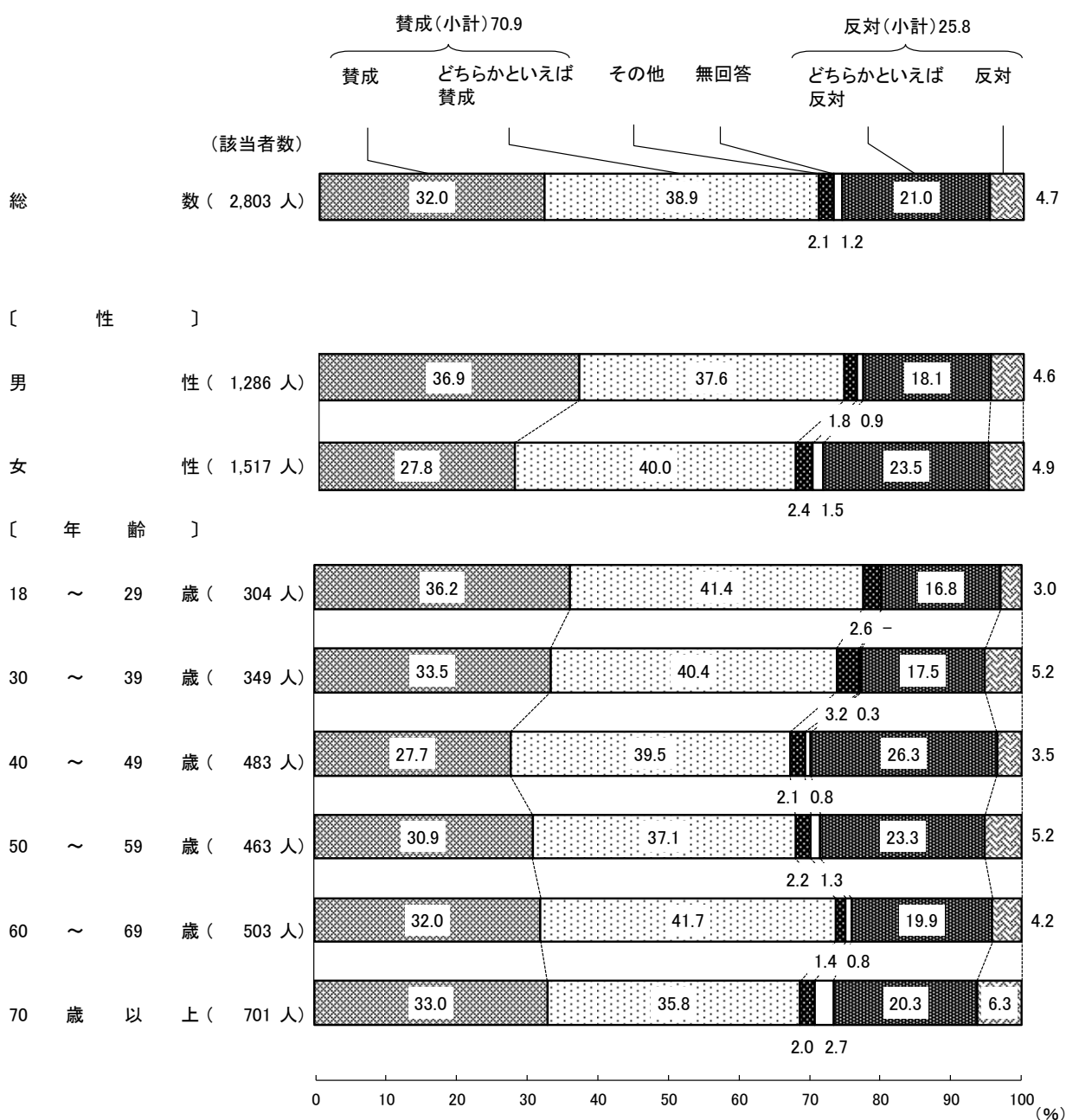
反対（小計）

25.8%

- ・ どちらかといえば反対
- ・ 反対

21.0%

4.7%

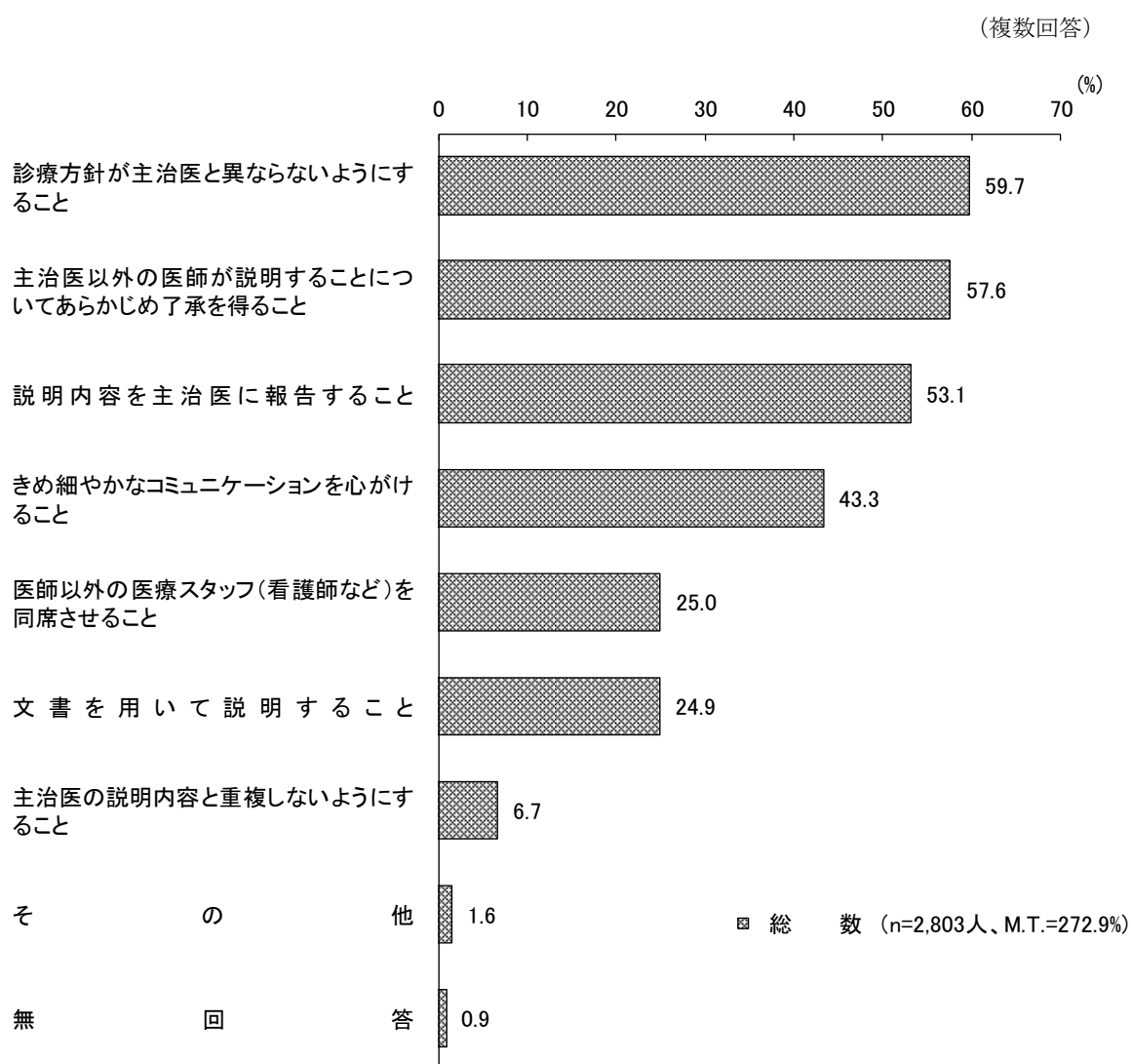


(3) 主治医以外の医師による病状説明で配慮してほしいこと

問 15 あなたは、主治医（診療を主として担当する医師）以外の医師が病状を説明するに当たり、どのようなことに配慮してほしいですか。（〇はいくつでも）

(上位4項目)
令和元年7月

- ・ 診療方針が主治医と異なるようにすること 59.7%
- ・ 主治医以外の医師が説明することについてあらかじめ了承を得ること 57.6%
- ・ 説明内容を主治医に報告すること 53.1%
- ・ きめ細やかなコミュニケーションを心がけること 43.3%



4 医療機関の機能分化・連携について

(1) 医療機関の統廃合の賛否

問 16 複数の医療スタッフで業務を分担しながら 24 時間診療が行えるよう、いくつかの医療機関を統廃合することにより、医療スタッフを集めるという考えに賛成ですか、それとも反対ですか。(○は1つ)

令和元年 7 月

賛成 (小計)

68.9%

・ 賛成

33.2%

・ どちらかといえば賛成

35.6%

反対 (小計)

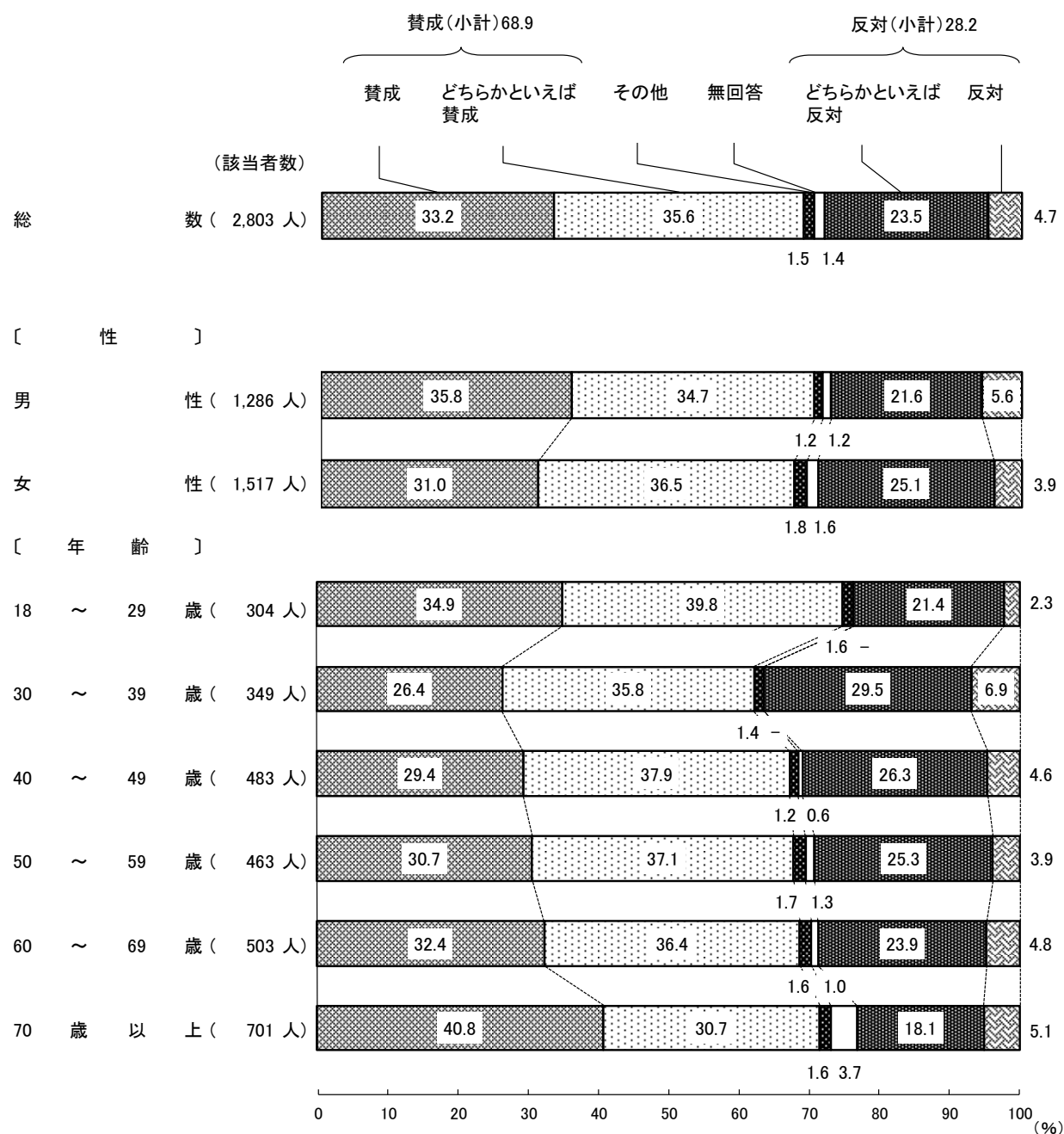
28.2%

・ どちらかといえば反対

23.5%

・ 反対

4.7%



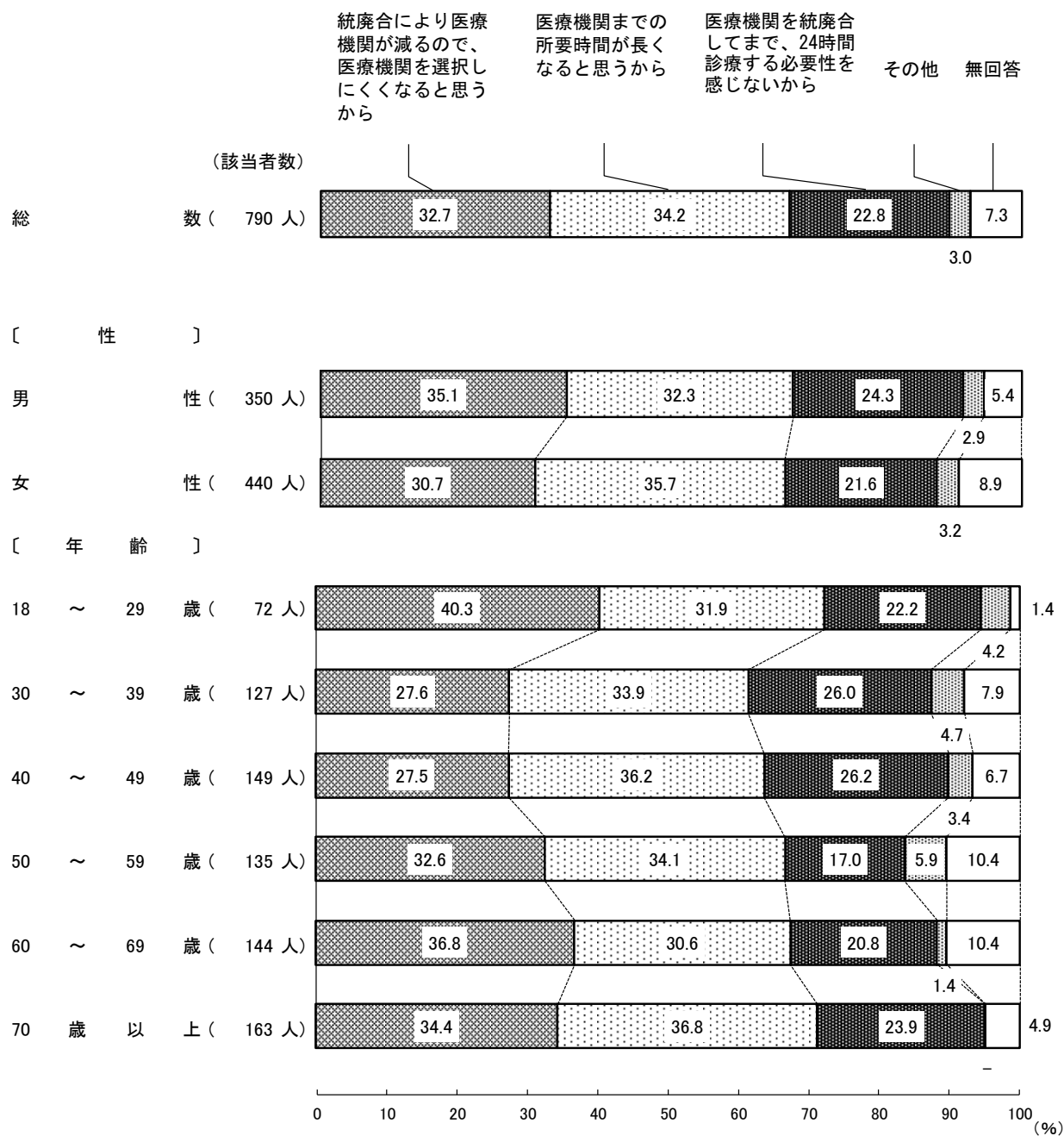
ア 医療機関の統廃合に反対する理由

(問 16 で「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた方 (790 人) に)
 問 17 あなたが反対する理由は何ですか。(〇は最もあてはまるものに1つ)

令和元年 7 月

- ・ 統廃合により医療機関が減るので、医療機関を選択しにくくなると思うから 32.7%
- ・ 医療機関までの所要時間が長くなると思うから 34.2%
- ・ 医療機関を統廃合してまで、24 時間診療する必要性を感じないから 22.8%

(医療機関の統廃合に「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた者に)

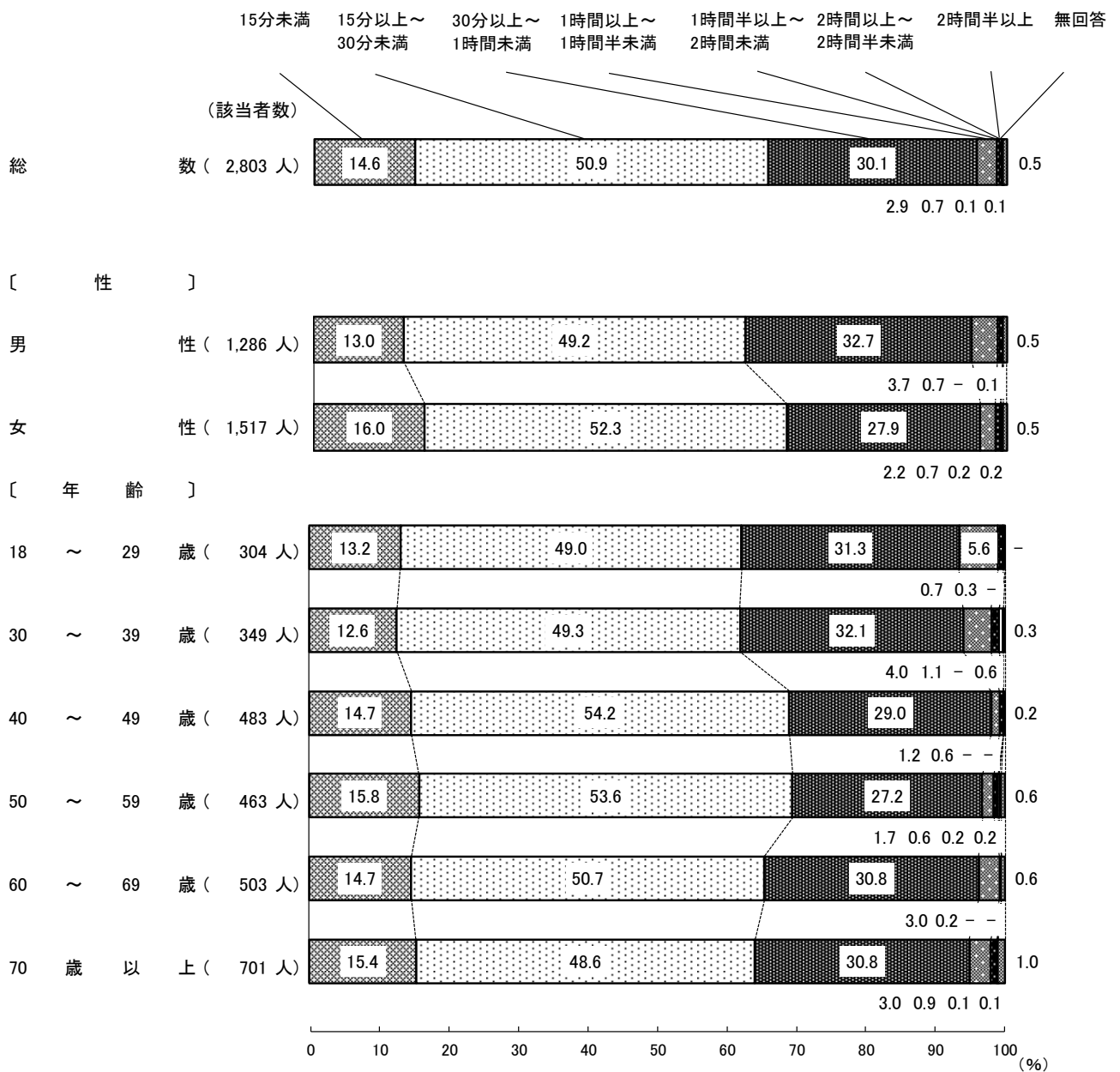


(2) 入院が不要な診療を受ける医療機関への許容できる所要時間

問 18 入院の必要がない病気やケガの診療を受けるような医療機関までの、自宅からの所要時間（救急車の利用を除く）として、許容できる最長の時間は次のうち、どれですか。（○は1つ）

令和元年7月

- ・ 15分未満 14.6%
- ・ 15分以上～30分未満 50.9%
- ・ 30分以上～1時間未満 30.1%
- ・ 1時間以上～1時間半未満 2.9%
- ・ 1時間半以上～2時間未満 0.7%
- ・ 2時間以上～2時間半未満 0.1%
- ・ 2時間半以上 0.1%

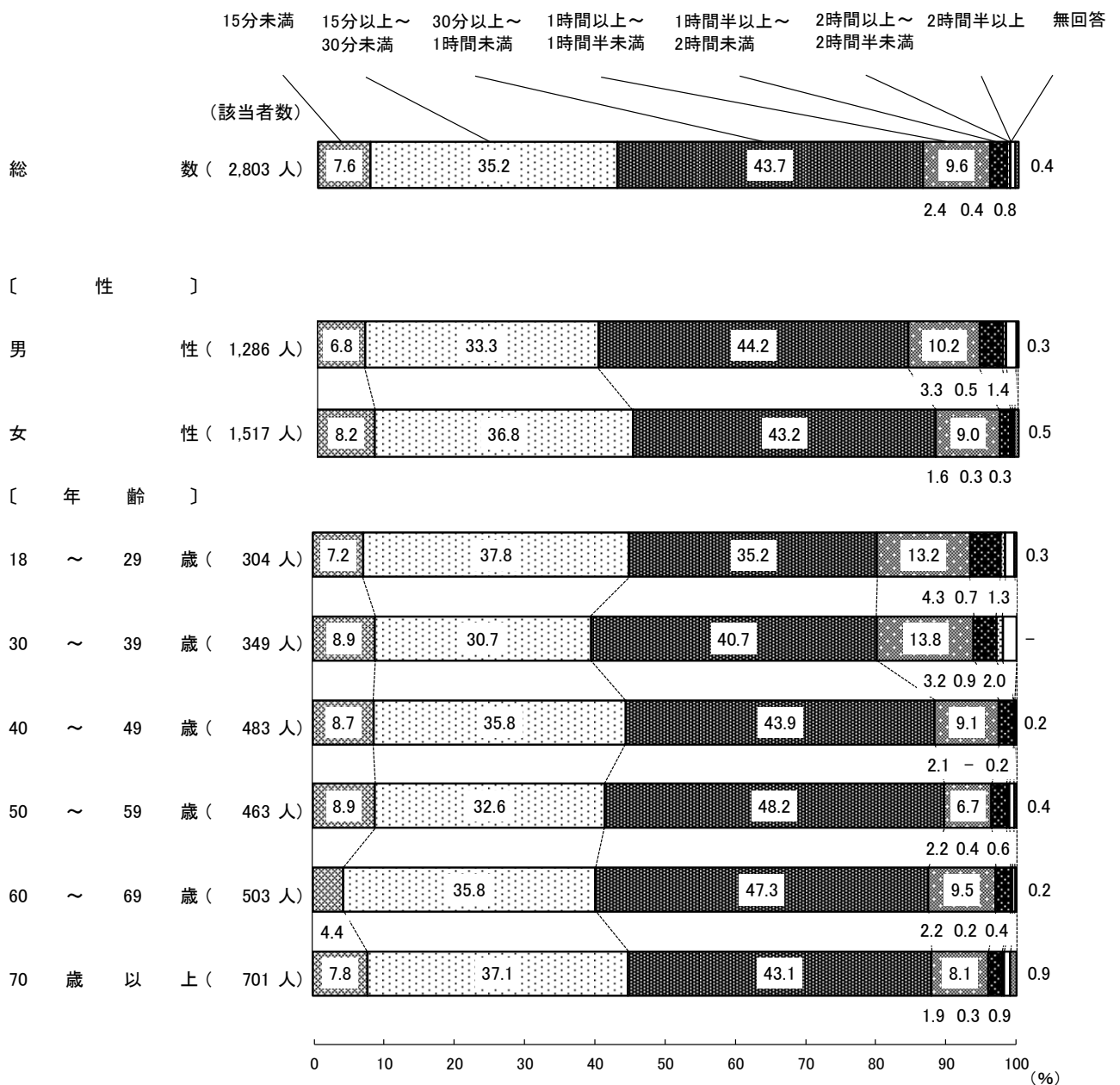


(3) 入院が必要な診療を受ける医療機関への許容できる所要時間

問 19 数日間の入院が必要な病気やケガの診療を受けるような医療機関までの、自宅からの所要時間（救急車の利用を除く）として、許容できる最長の時間は次のうち、どれですか。（○は1つ）

令和元年 7 月

- ・ 15 分未満 7.6%
- ・ 15 分以上～30 分未満 35.2%
- ・ 30 分以上～1 時間未満 43.7%
- ・ 1 時間以上～1 時間半未満 9.6%
- ・ 1 時間半以上～2 時間未満 2.4%
- ・ 2 時間以上～2 時間半未満 0.4%
- ・ 2 時間半以上 0.8%



<女性の健康>

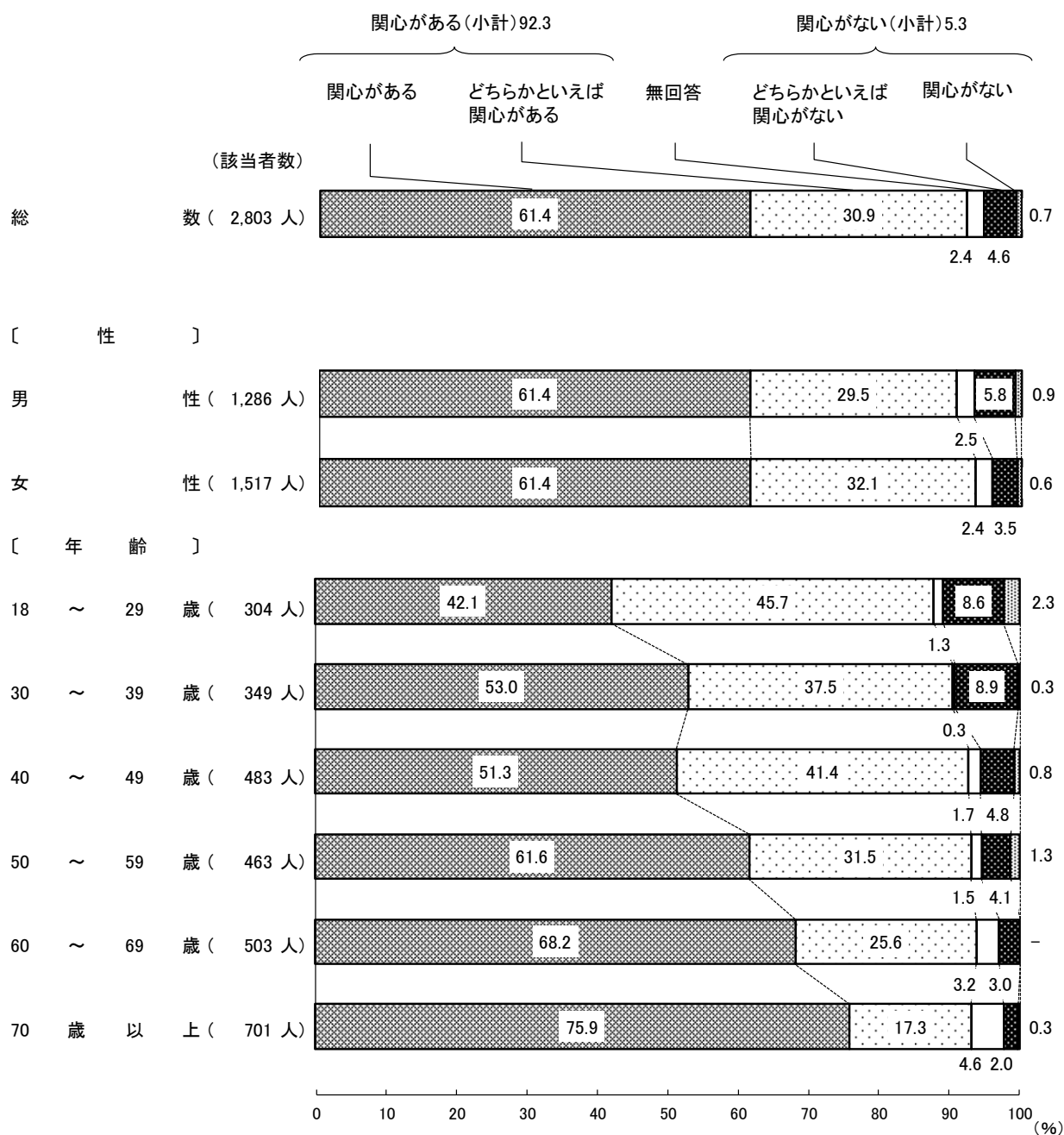
1 自分の健康について

(1) 自分の健康への関心

問 20 あなたは、自分の健康に関心がありますか。(○は1つ)

令和元年7月

関心がある(小計)	92.3%
・関心がある	61.4%
・どちらかといえば関心がある	30.9%
関心がない(小計)	5.3%
・どちらかといえば関心がない	4.6%
・関心がない	0.7%



(2) 健康増進のために心がけていること

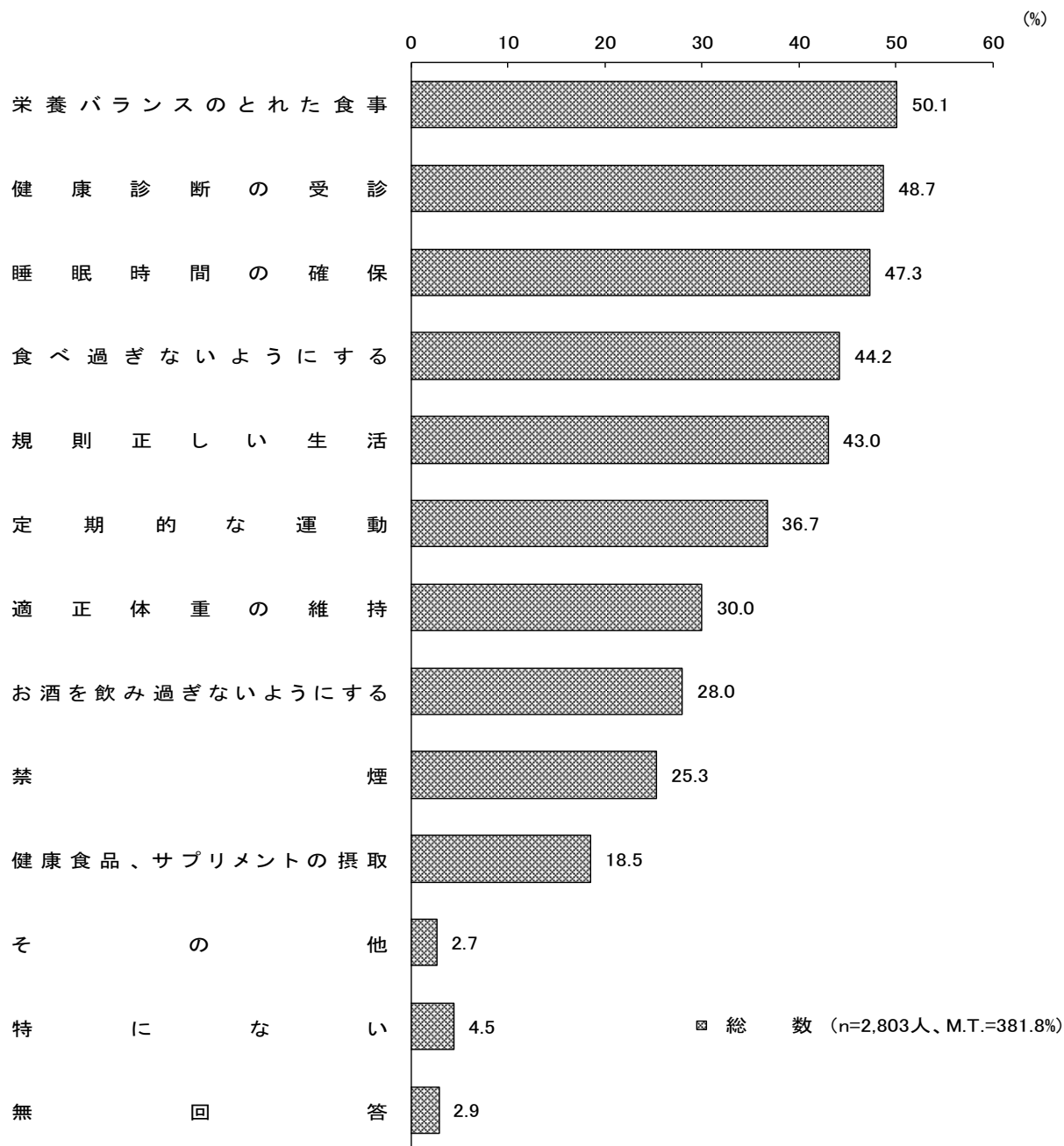
問 21 あなたは、健康増進のために心がけていることがありますか。(〇はいくつでも)

(上位 5 項目)

令和元年 7 月

・栄養バランスのとれた食事	50.1%
・健康診断の受診	48.7%
・睡眠時間の確保	47.3%
・食べ過ぎないようにする	44.2%
・規則正しい生活	43.0%

(複数回答)



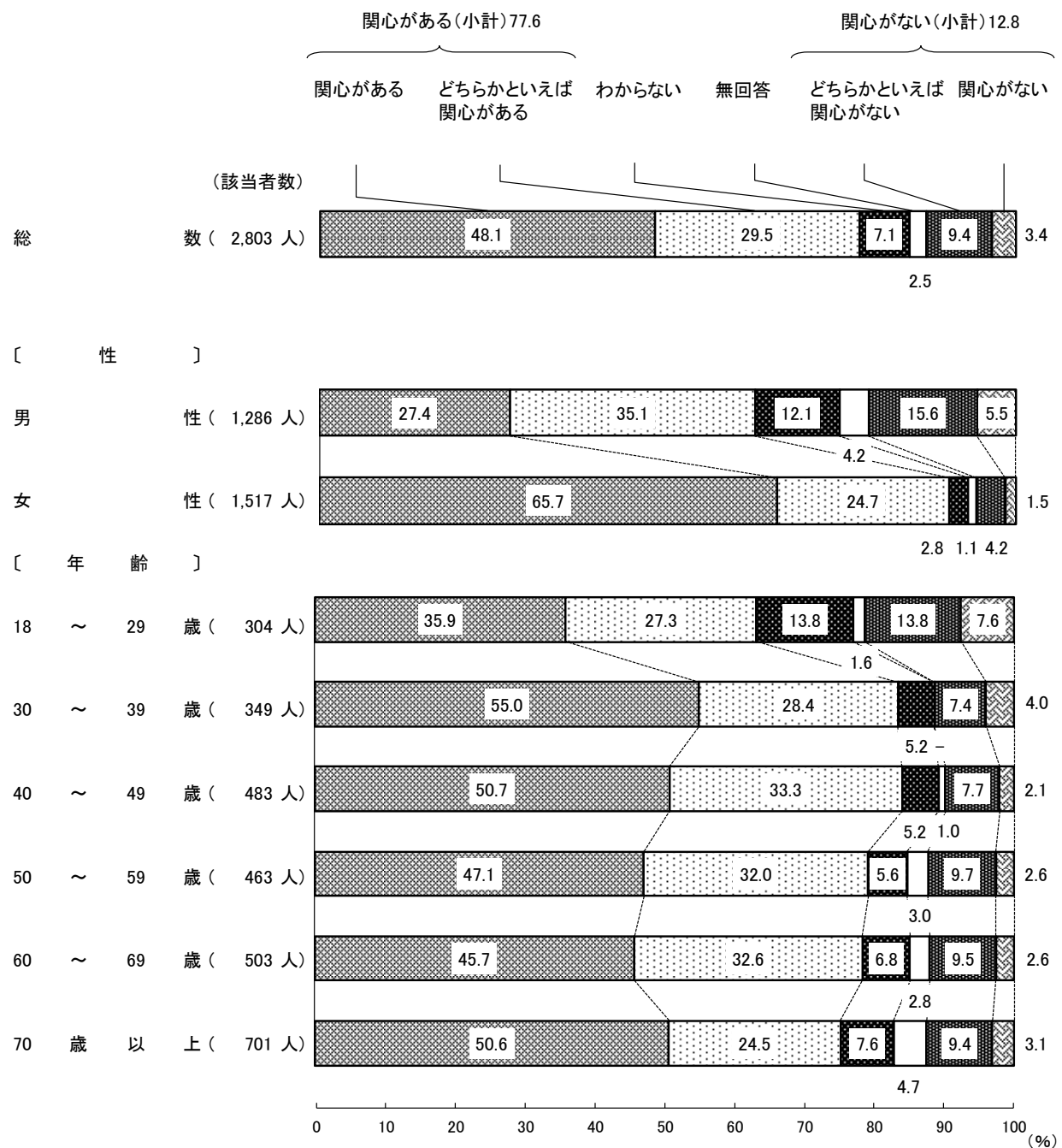
2 女性の健康について

(1) 女性の健康課題への関心

問 22 あなたは、女性の健康課題（月経関連疾患、妊娠出産や月経による心身の変化、乳がん、子宮頸がん、更年期障害、骨粗鬆症^{こつそしょうしょう}など）について関心がありますか。（○は1つ）

令和元年7月

関心がある(小計)	77.6%
・関心がある	48.1%
・どちらかといえば関心がある	29.5%
関心がない(小計)	12.8%
・どちらかといえば関心がない	9.4%
・関心がない	3.4%



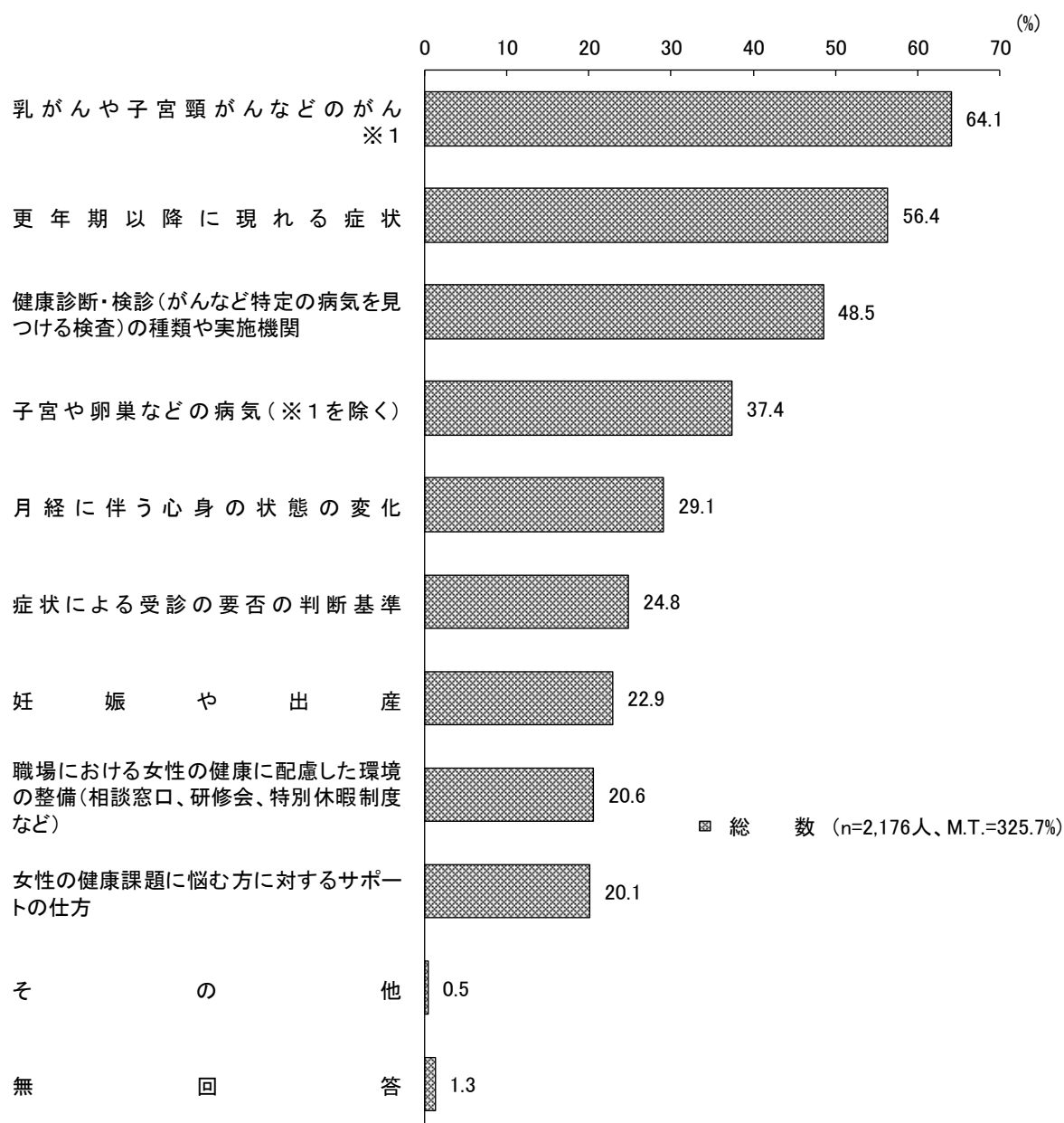
ア 女性の健康課題の関心事項

(問 22 で「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた方 (2,176 人) に)
 問 23 女性の健康課題について、関心があることは何ですか。(〇はいくつでも)

(上位 4 項目)
 令和元年 7 月

・乳がんや子宮頸がんなどのがん ※1	64.1%
・更年期以降に現れる症状	56.4%
・健康診断・検診(がんなど特定の病気を見つける検査)の種類や実施機関	48.5%
・子宮や卵巣などの病気(※1を除く)	37.4%

(女性の健康課題について「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた者に、複数回答)



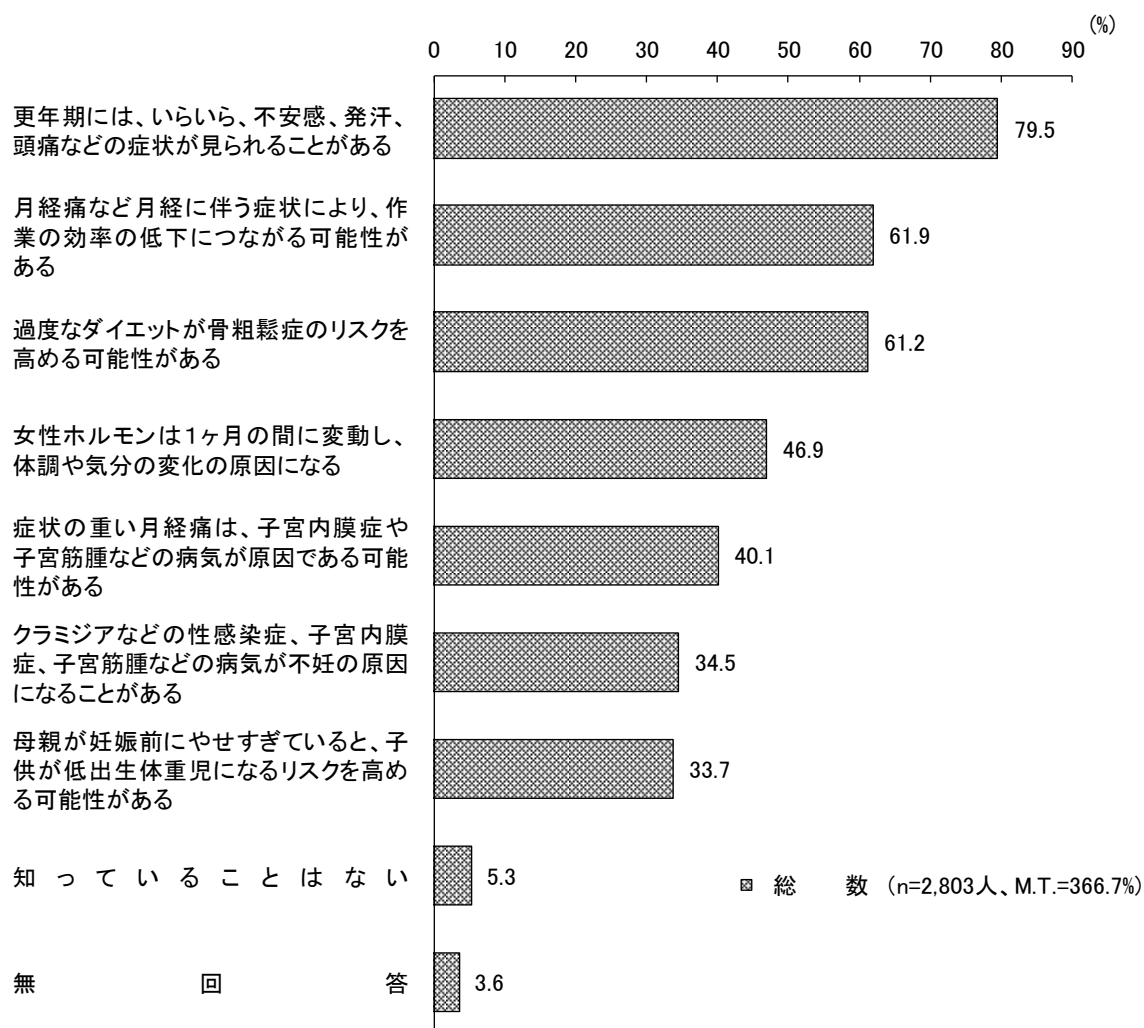
(2) 女性の健康課題で知っていること

問 24 女性の健康課題について、次の中で知っていることはありますか。(〇はいくつでも)

(上位4項目)
令和元年7月

- ・更年期には、いろいろ、不安感、発汗、頭痛などの症状が見られることがある 79.5%
- ・月経痛など月経に伴う症状により、作業の効率の低下につながる可能性がある 61.9%
- ・過度なダイエットが骨粗鬆症のリスクを高める可能性がある 61.2%
- ・女性ホルモンは1ヶ月の間に変動し、体調や気分の変化の原因になる 46.9%

(複数回答)

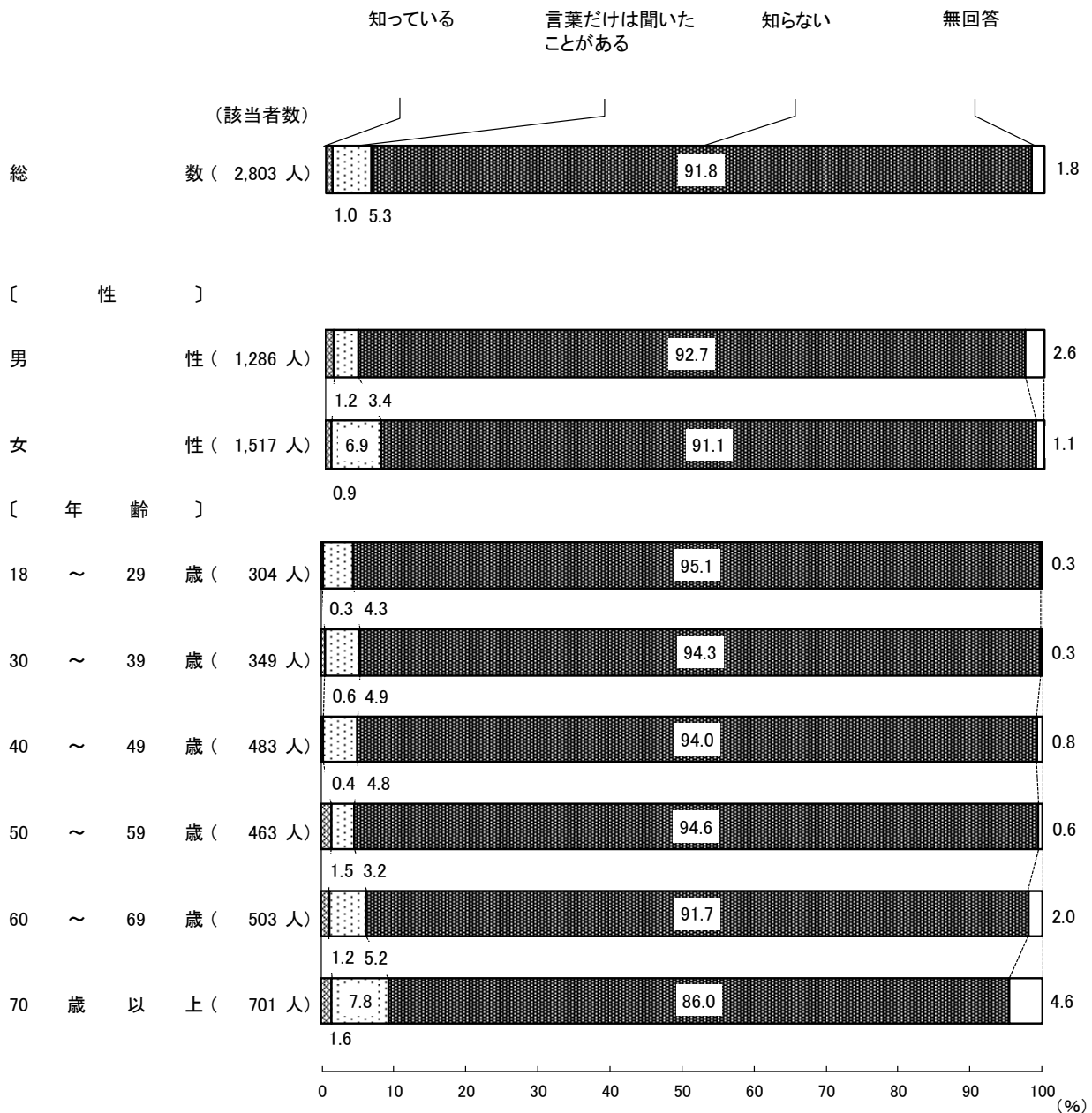


(3) 「女性の健康推進室ヘルスケアラボ」の認知

問 25 女性の健康に関する情報を掲載したインターネット上のホームページとして、「女性の健康推進室ヘルスケアラボ」というウェブサイトがあることを知っていますか。(〇は1つ)

令和元年7月

- ・知っている 1.0%
- ・言葉だけは聞いたことがある 5.3%
- ・知らない 91.8%

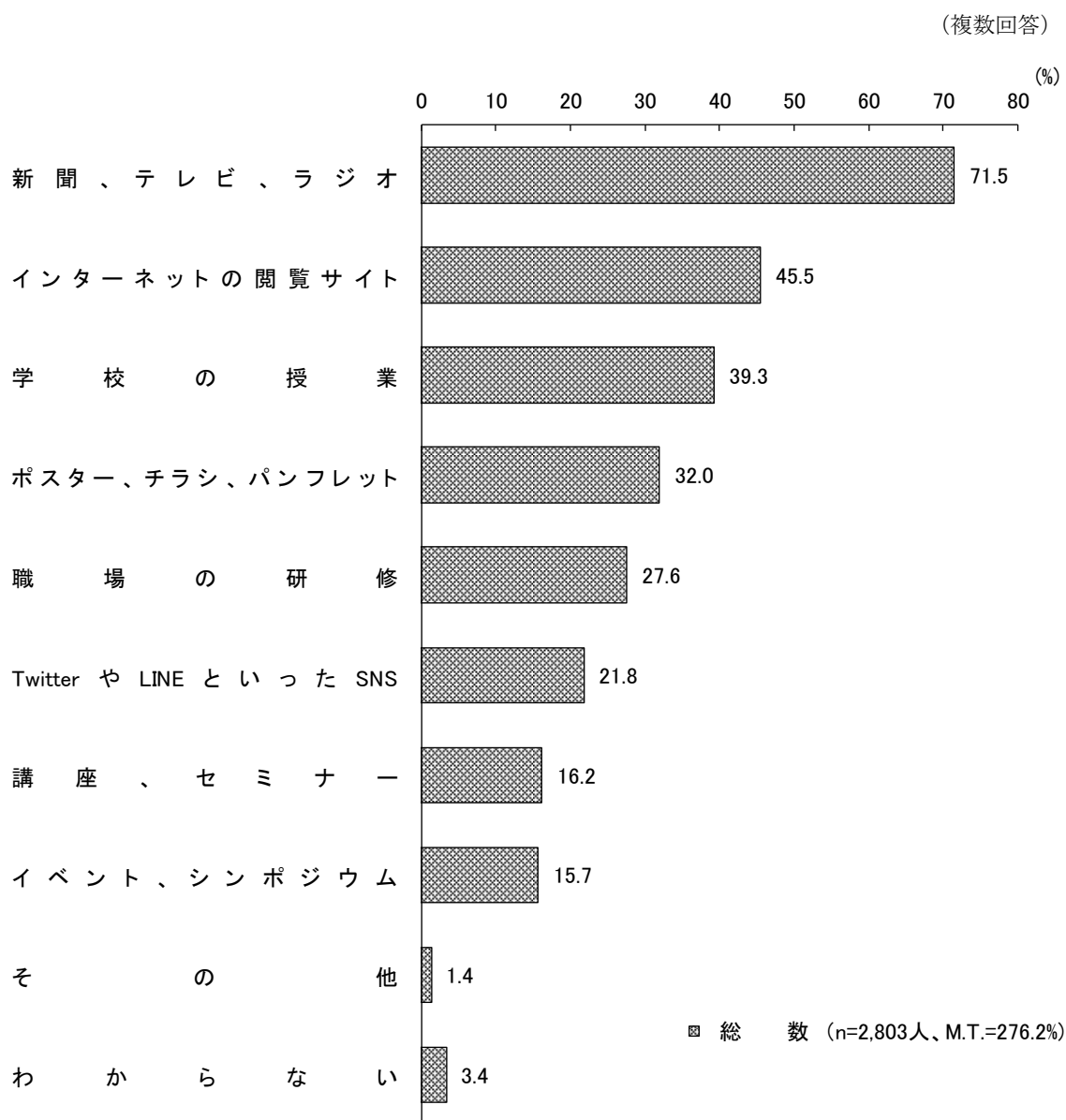


(4) 女性の健康についての広報啓発

問 26 女性の健康について、関心を高めるためには、どのような方法で広報啓発することが効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

(上位4項目)
令和元年7月

・新聞、テレビ、ラジオ	71.5%
・インターネットの閲覧サイト	45.5%
・学校の授業	39.3%
・ポスター、チラシ、パンフレット	32.0%



(5) 女性の健康に関して行政が力を入れるべきこと

問 27 あなたは、女性の健康に関して、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○はいくつでも)

(上位4項目)
令和元年7月

- ・健康診断の充実 64.5%
- ・女性の健康に関する情報提供などの広報啓発 59.2%
- ・学校における女性の健康に関する教育 45.7%
- ・職場における労働環境の改善の推進 37.9%

(複数回答)

